令和４年度中山間地域住民生活実態調査について

１　調査の目的等

人口減少と高齢化の進展により、県内の一部の地域においては、買い物などの生活機能が失われてきている状況にある。今後も、中山間地域において県民が安心して暮らすことができるように、これまでの住民主体の取組に加えて、生活機能の維持・確保に向けた新たな対策を検討するため、買い物や通院先、生活交通、家族等の支援状況など、住民の生活実態を把握する調査を行った。

２　調査の概要

（１）中山間地域住民の生活実態に関する調査

①アンケート調査

調査時期	令和４年７月～８月
調査対象	平成合併前の旧市町村から選定した18エリアに在住する18歳以上の12,000人（無作為抽出） ※選定したエリアを、「基幹集落」（平成合併前の旧市役所・町村役場のある地域）と「周辺部集落」（それ以外の地域）に分けて調査
調査方法	郵送による調査
回答者数	6,207人（回答率51.7%）
主な調査項目	・買い物、通院などの生活環境の評価、利用状況 ・外出と移動手段 ・移動販売、通信販売等の利用状況 ・別居の家族、親族からの手助け等 ・自治会等の活動参加 ・今後の居住意向、幸福感等

②ヒアリング調査

調査時期	令和４年10月～11月
調査対象	アンケート調査の対象18エリアの基幹集落及び周辺部集落の住民383人（うち基幹集落195人、周辺部集落188人）
調査方法	ワークショップ形式のグループインタビュー
主な調査項目	・商店や病院、ガソリンスタンドなどの利用先 ・日常生活の移動手段

（２）中山間地域出身者へのアンケート調査

調査時期	令和４年９月～10月
調査対象	実家から離れて暮らしている県内の中山間地域出身者
調査方法	郵送またはWebによる調査
回答者数	898人　うち郵送調査　260人（配布数530、回答率49.1%） うちWeb調査　638人
主な調査項目	・実家への行き来の状況 ・ふるさとへの愛着、Ｕターンの意向

３　主な調査結果

（１）住民調査（アンケート、ヒアリング調査）

① 生活環境の評価、利用状況・・・P3～9（問 1～9）

生活環境の評価、近くになくて不便を感じている施設、居住地域の暮らしやすさ、生活に必要な施設・サービスの継続的な利用、通院や買い物等でいつも利用する場所

② 外出と移動手段・・・P10～13（問 10～14）

最も利用する移動手段、自動車の運転状況、自動車の運転に対する不安、自動車の運転ができなくなった場合の暮らしへの影響、外出の際に困っていること

③ 移動販売、通信販売等の利用状況・・・P14～17（問 15～19）

移動販売・食材配達・通信販売・携帯電話の利用状況

④ 別居の家族・親族からの手助け等・・・P18～22（問 20～26）

別居の家族･親族との日常的に会う頻度、手助けをしてくれる別居の家族･親族、最も手助けしてくれる人の続柄・居住地域、手助けをお願いする内容・頻度、手助けをしてもらう回数が減った場合等の暮らしへの影響

⑤ 自治会等の活動・・・P23～24（問 27～28）

自治会等への参加状況、自治会等の活動が低下した場合等の暮らしへの影響

⑥ 今後の居住意向、幸福感等・・・P25～29（問 29～33）

今後の居住意向、現在の居住地域で暮らしている理由、現在の居住地域で暮らし続けられなくなる原因、暮らしの幸福感、必要な生活費

（２）出身者調査（アンケート調査）

① 実家との行き来の状況・・・P30～31（問 1～3）

実家との行き来の頻度、実家へ行く目的、今後の実家への手助け

② ふるさとへの愛着、Ｕターンの意向・・・P31～33（問 4～7）

ふるさとへの愛着、ふるさととのつながり、Ｕターンの意向

※グラフについて

・構成比は小数点以下第二位を四捨五入しているため、合計しても必ずしも 100%とはならない。

・グラフ中「全体」の数値は年齢未回答者を含めているため、年齢別の合計と一致しない。

・問 22～25 は最も手助けしてくれる方（最大２人）について質問しており、回答のあったものの合計でグラフを作成している。

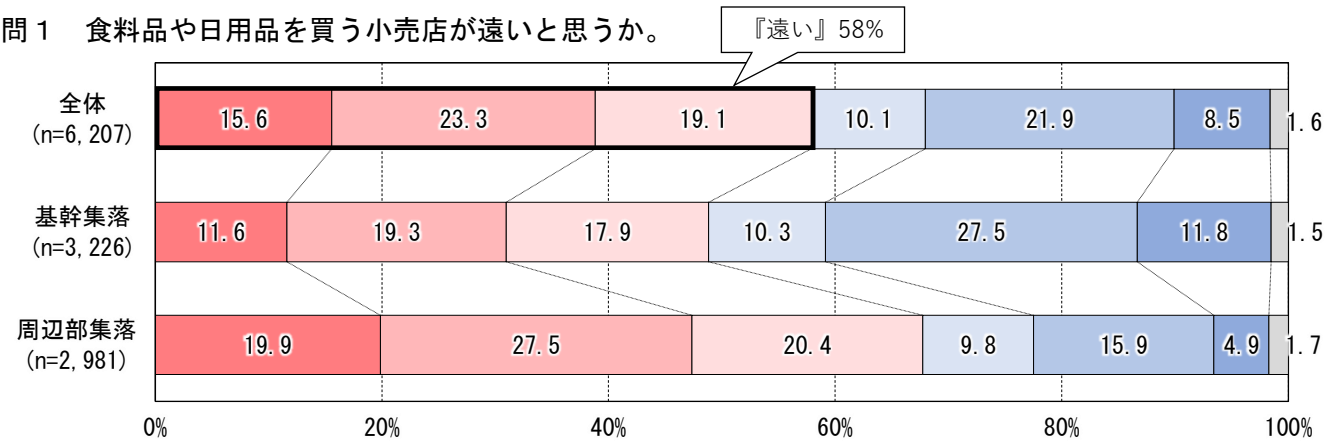
３　主な調査結果（住民調査）

（１）生活環境の評価、利用状況

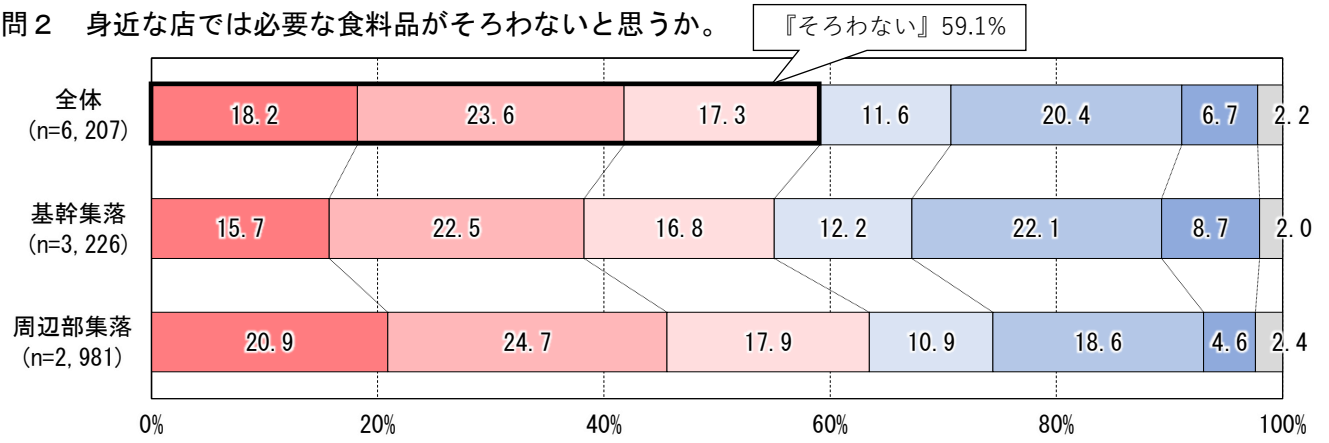
（生活環境の評価）

日々の暮らしにおいて、食料品や日用品を買う小売店が『遠い』（「とてもそう思う」「そう思う」「どちらかといえばそう思う」の計。以下同じ）と回答した人は58%となっている。身近な店では必要な食料品が『そろわない』（「とてもそう思う」「そう思う」「どちらかといえばそう思う」の計。以下同じ。）と回答した人は59.1%、身近な店では必要な日用品が『そろわない』は63.2%となっている。また、基幹集落よりも周辺部集落の住民のほうが、『遠い』または『そろわない』と回答した割合が高くなっている。

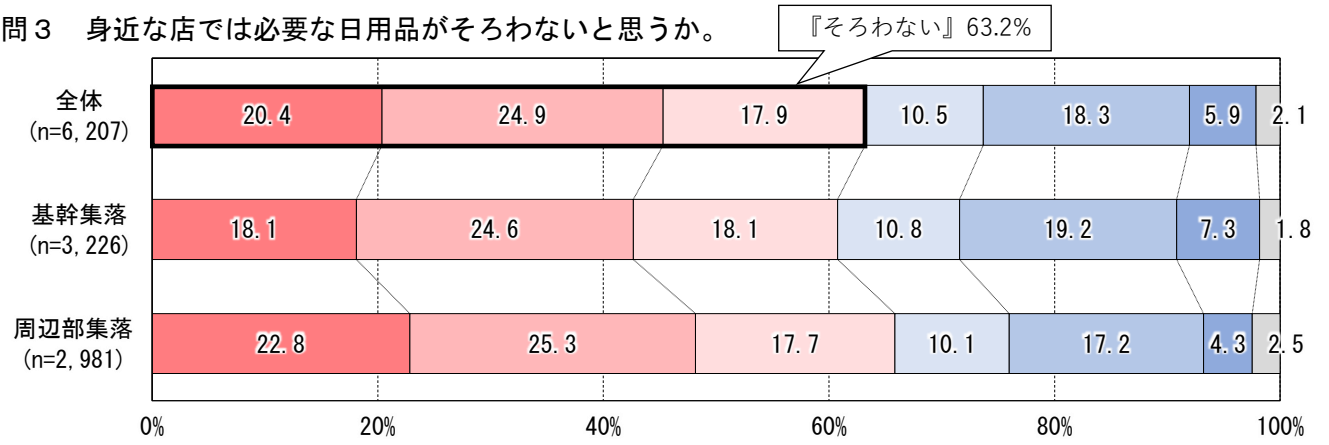
問１　食料品や日用品を買う小売店が遠いと思うか。



問２　身近な店では必要な食料品がそろわないと思うか。



問３　身近な店では必要な日用品がそろわないと思うか。

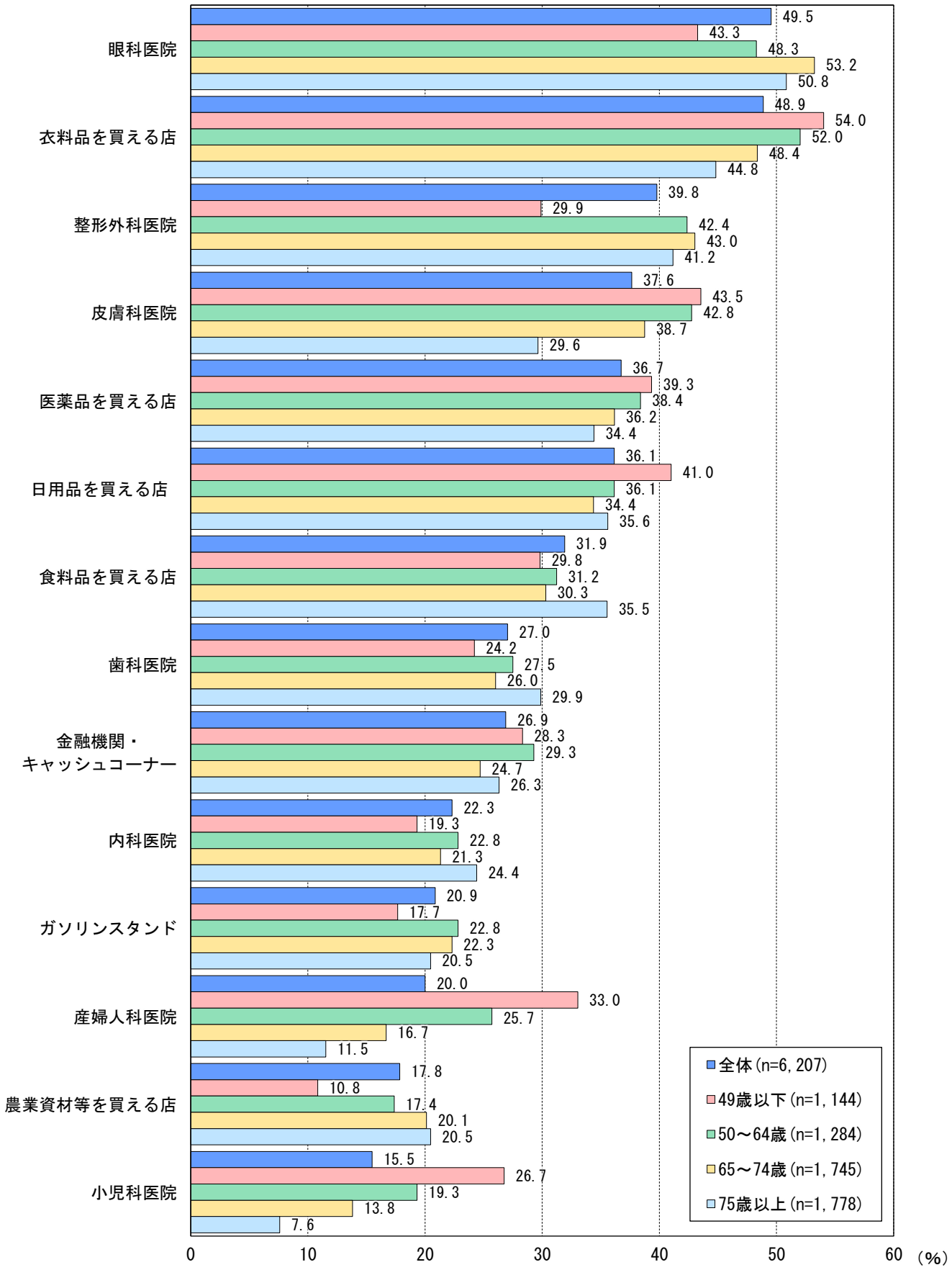


■とてもそう思う　■そう思う　■どちらかといえばそう思う
■どちらかといえばそう思わない　■そう思わない　■まったくそう思わない
■無回答

（近くになくて不便を感じている施設）

近くになくて不便を感じている施設としては、「眼科医院」と回答した人が49.5%、「衣料品を買える店」と回答した人が48.9%となっている。

問４　近くになくて不便を感じている施設はなにか。



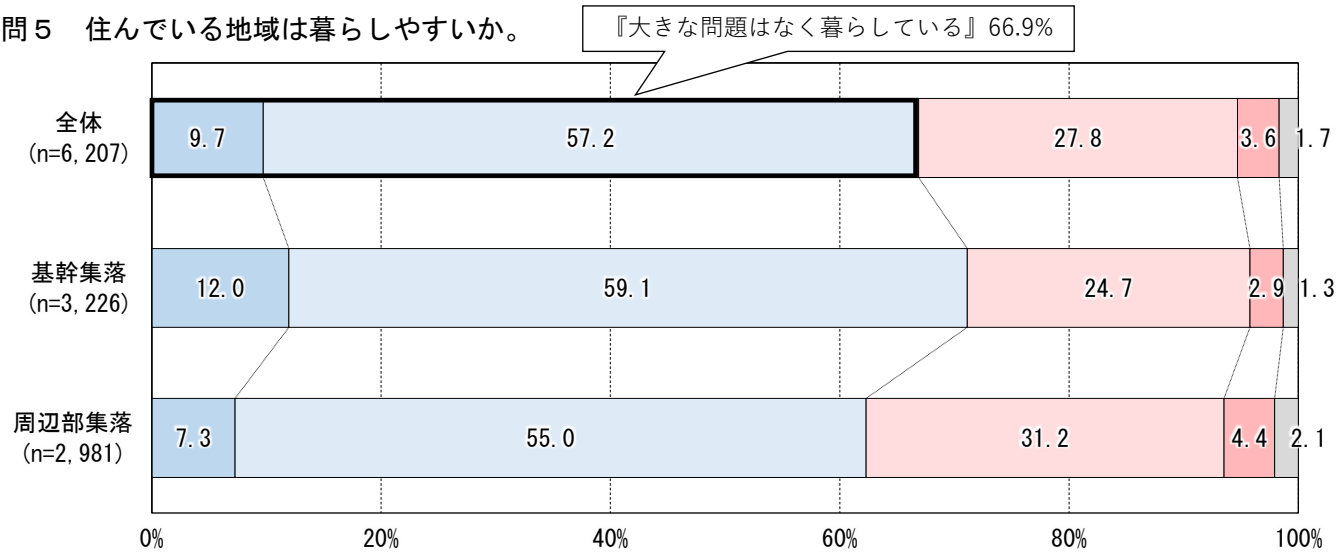
（居住地域の暮らしやすさ）

居住地域の暮らしやすさについて、『大きな問題はなく暮らしている』（「不便なく、安心して暮らしている」「やや不便ではあるが、大きな問題はなく暮らしている」の計。以下同じ）と回答した人は66.9％となっている。

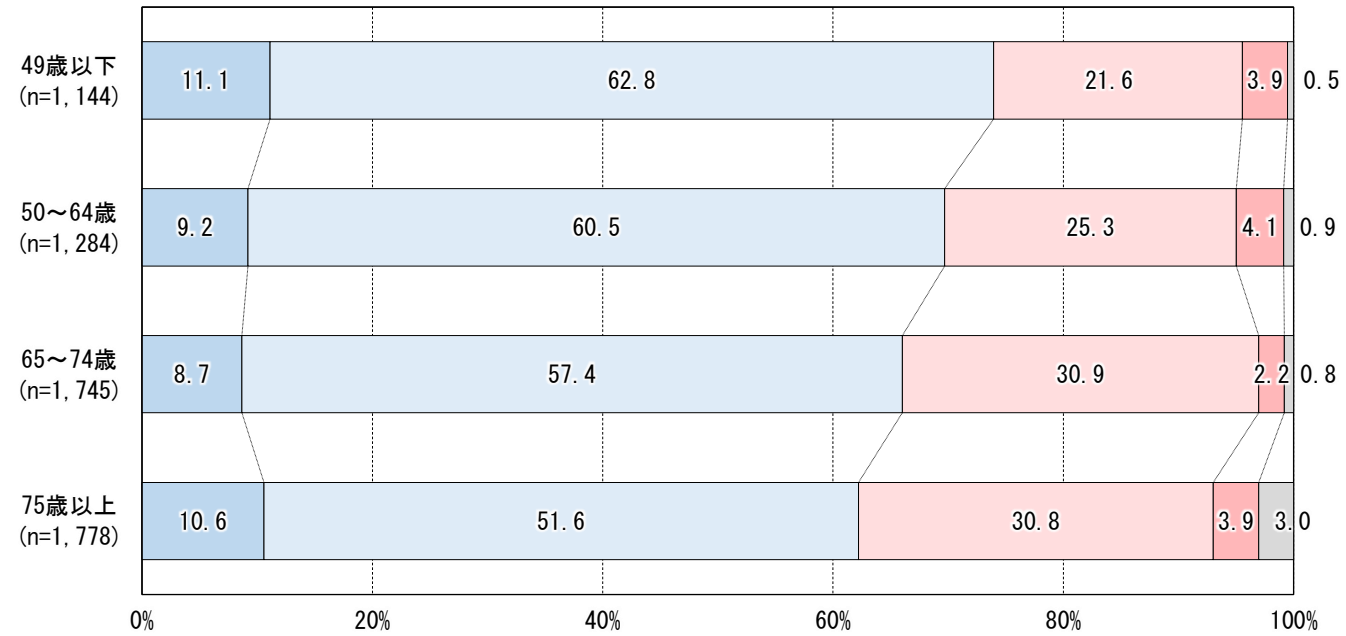
また、周辺部集落と比べて基幹集落の住民のほうが、『大きな問題はなく暮らしている』と回答した割合が高くなっている。

年齢別にみると、年齢層が下がるにつれて、『大きな問題はなく暮らしている』と回答した割合が高くなっている。

問５　住んでいる地域は暮らしやすいか。



（年齢別）

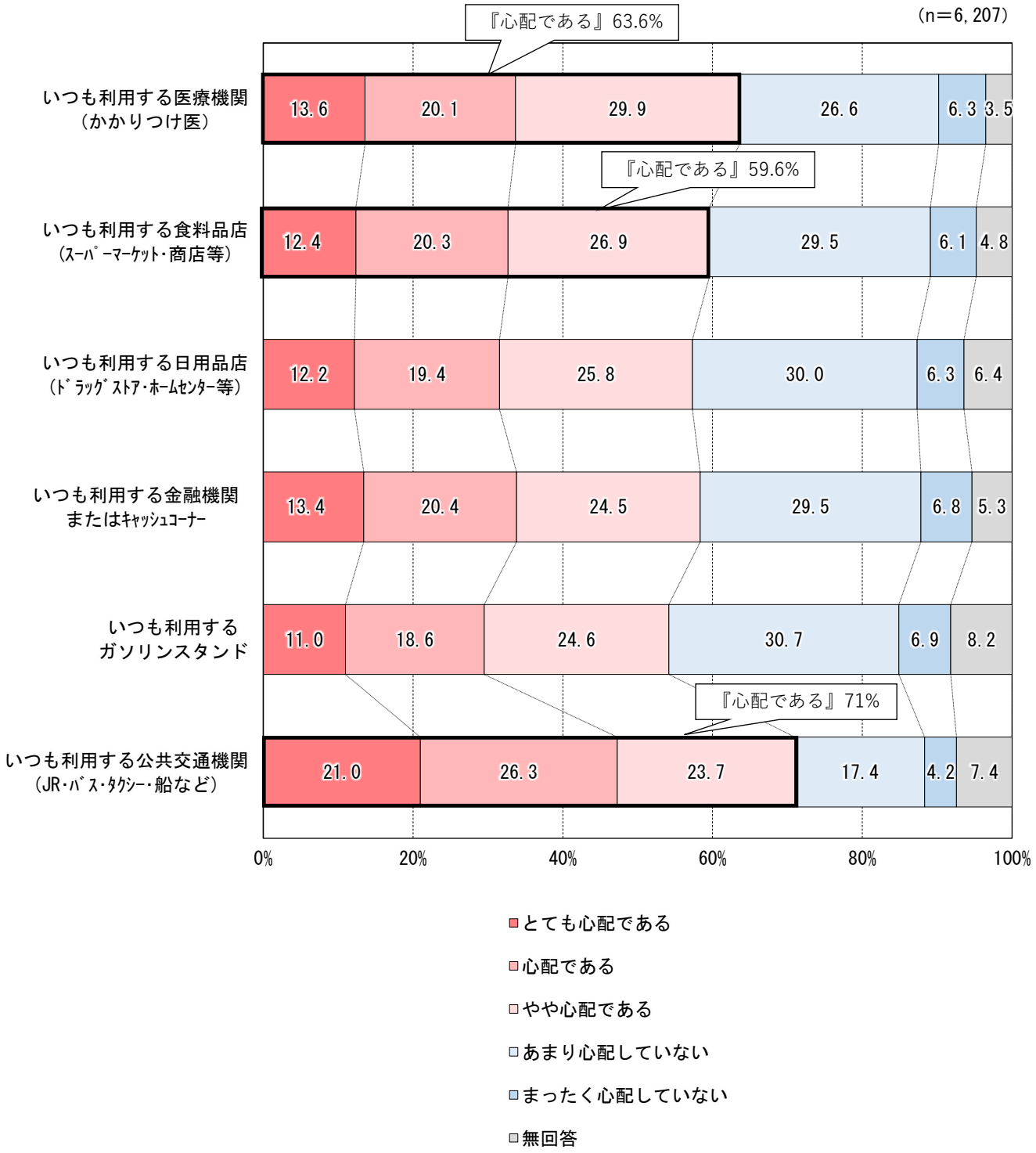


- 不便なく、安心して暮らしている
- やや不便ではあるが、大きな問題はなく暮らしている
- 不便を感じており、不安なことはあるが、なんとか暮らしている
- とても便利が悪く、暮らしにくい
- 無回答

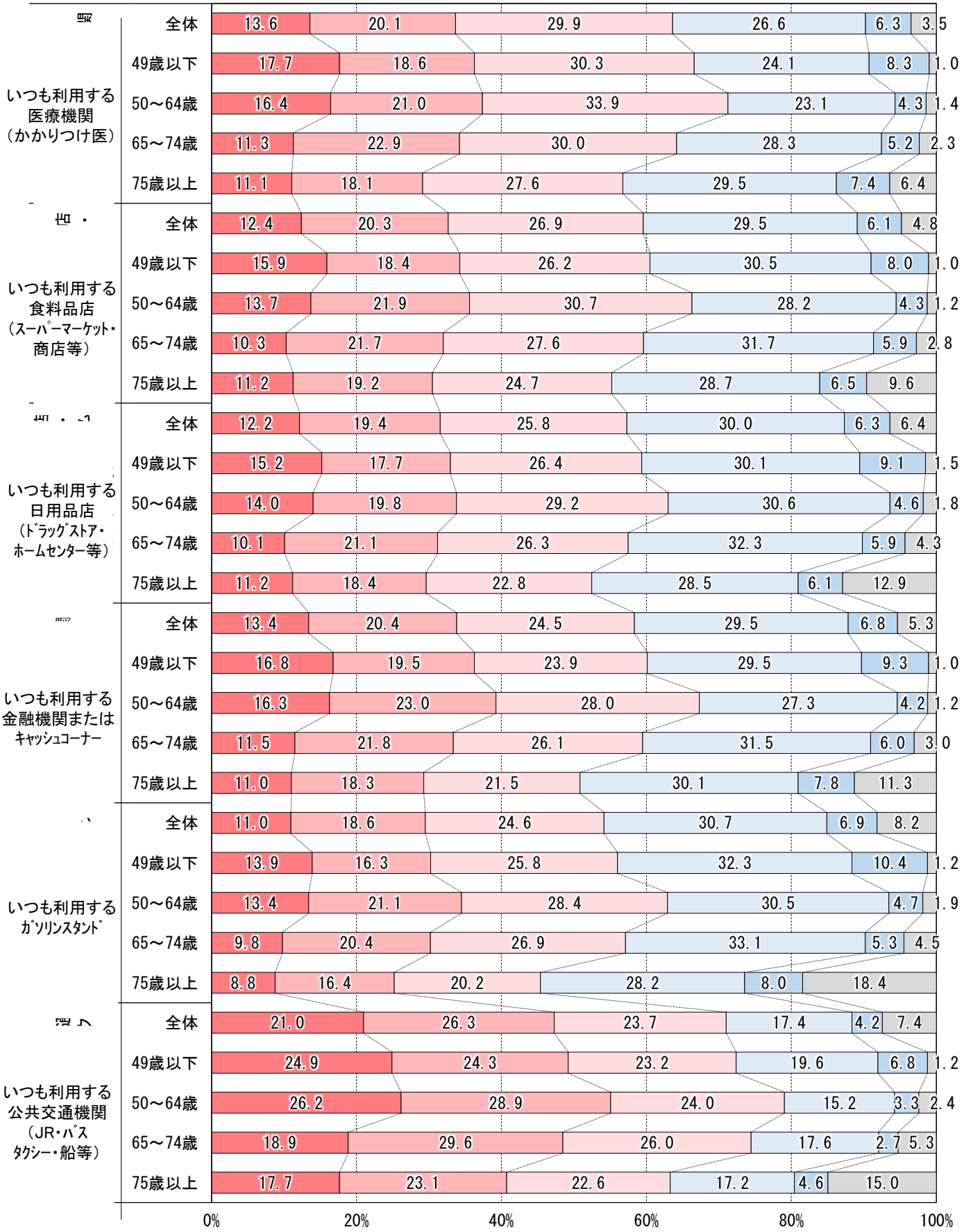
（生活に必要な施設・サービスの継続的な利用）

いつも利用している施設・サービスが、将来（５年後）も心配なく利用できると思うかについては、「公共交通機関」を利用できるか『心配である』（「とても心配である」「心配である」「やや心配である」の計。以下同じ）と回答した人が71％と最も高くなっており、次いで「医療機関」が63.6％、「食料品店」が59.6％と高くなっている。

問６　いつも利用する施設・サービスのうち、将来（５年後）利用できなくなったりはしないかと心配になるものはあるか。



年齢別にみると、全ての項目において、50～64歳で『心配である』と回答した割合が高くなっている。



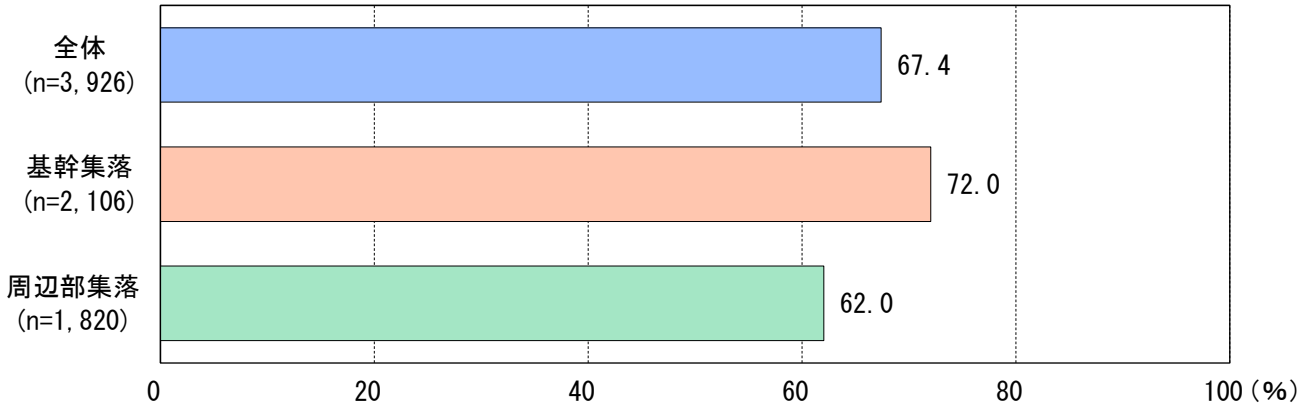
（全体：n=6,207　49歳以下：n=1,144　50～64歳：n=1,284　65～74歳：n=1,745　75歳以上　：n=1,778）

（いつも利用する医療機関の場所）

いつも利用する医療機関（かかりつけ医）が居住地域内（旧市町村内）にあると回答した人は67.4％となっている。

問７　いつも利用する医療機関（かかりつけ医）の場所はどこか。

いつも利用する医療機関（かかりつけ医）が居住地域内（旧市町村内）にある人の割合



■ヒアリング調査での主な意見

・顔なじみの安心感もあり、近くの医療機関に通っている人が多い。

・近くに眼科、皮膚科、耳鼻科などの診療科がなく、他市町の医療機関に通っている。

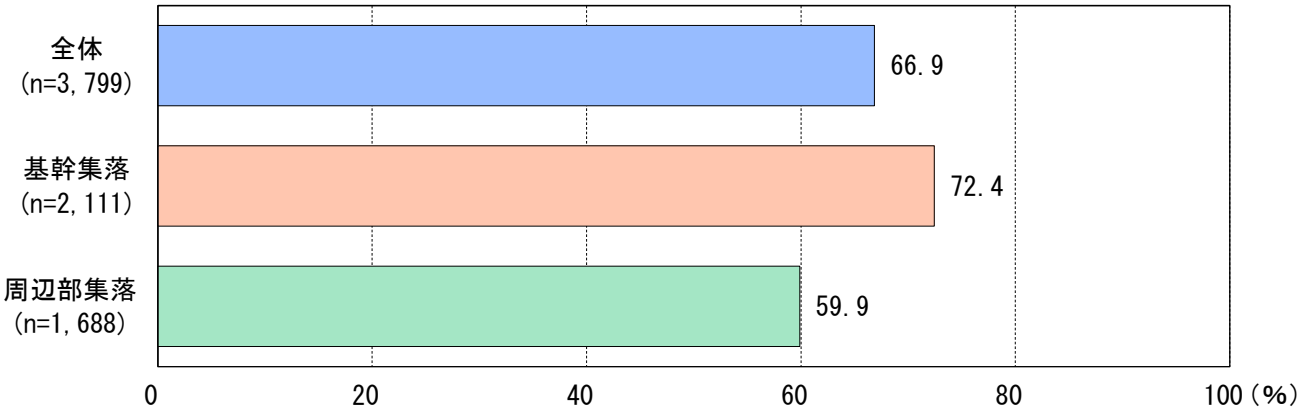
・かかりつけ医が高齢で後継者もいないため、今後が不安である。

（いつも利用する食料品店の場所）

「食料品店」については66.9％の人が、居住地域内（旧市町村内）の店舗をいつも利用していると回答している。

問８　いつも利用する食料品店の場所はどこか。

いつも利用する食料品店が居住地域内（旧市町村内）にある人の割合



■ヒアリング調査での主な意見

・高齢者や自動車の運転ができない人は近くの店舗で買い物をしている。

・生鮮食品は近くの店舗で買うことが多い。

・自動車が運転できる人は、休日や何かの用事で出かけた際に、近隣の大きな店舗に行ってまとめ買いをすることが多い。

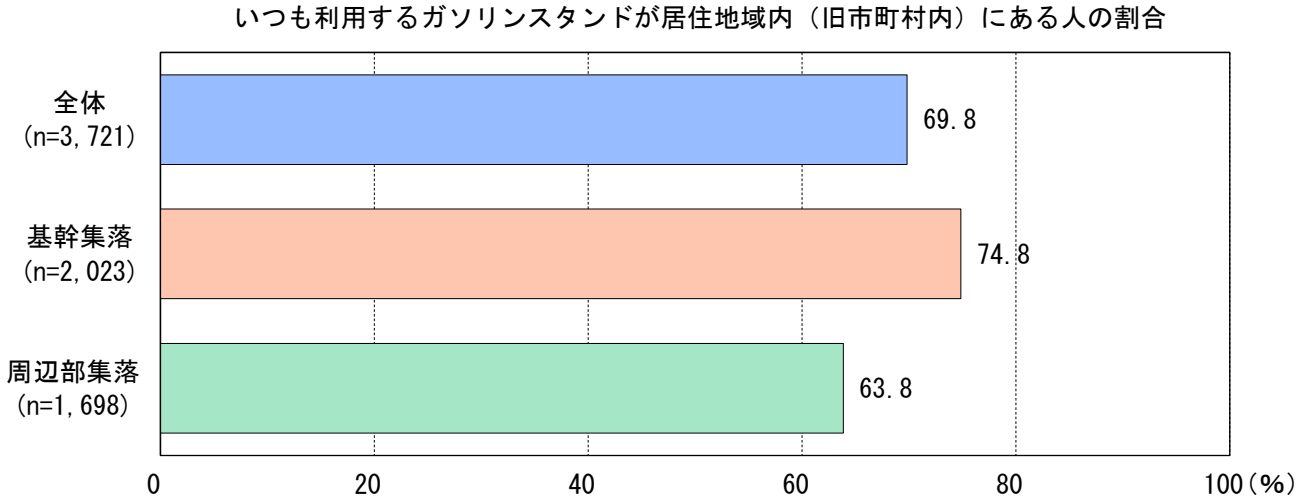
・大型店と比べると、品揃えが少なかったり、価格が高かったりするが、近くの店舗がなくならないように買い支える意識を持っている。

・商店の経営者が高齢で、いつまで営業されるか不安である。

（いつも利用するガソリンスタンドの場所）

「ガソリンスタンド」については69.8%の人が、居住地域内（旧市町村内）の店舗をいつも利用していると回答している。

問９ いつも利用するガソリンスタンドの場所はどこか。



■ヒアリング調査での主な意見

・近くのガソリンスタンドがなくならないように買い支えていこうと、価格が高くても利用している。

・働いている人は勤務先の近くなどで給油をしている人が多い。

・自動車だけでなく、ストーブや農機具等の燃油の購入先としても、近くのガソリンスタンドは大切である。

・ローリー車で灯油の配達をしてくれるので、高齢者にはとても助かる。

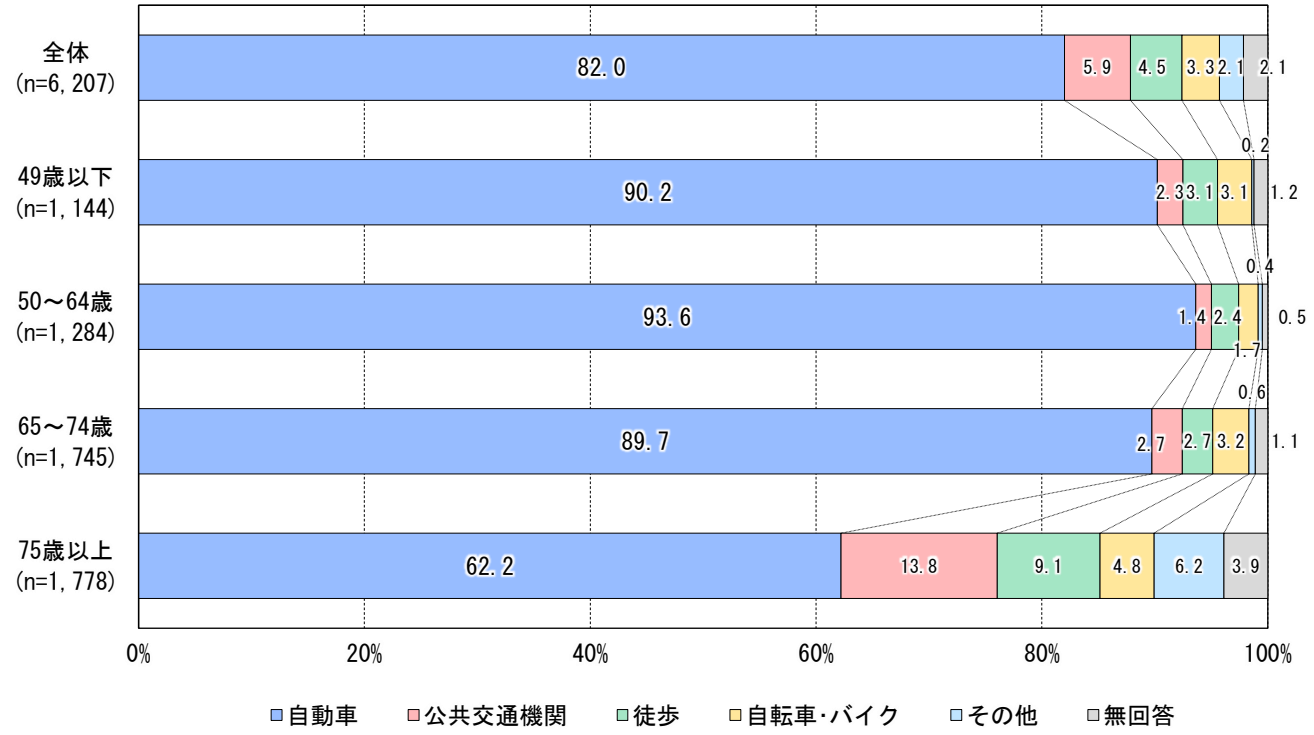
・自動車の故障などにも対応してくれるので、近くにガソリンスタンドがあると安心である。

（２）外出と移動手段

（最も利用する移動手段）

外出の際に最も利用する移動手段として、82％の人が「自動車」と回答している。

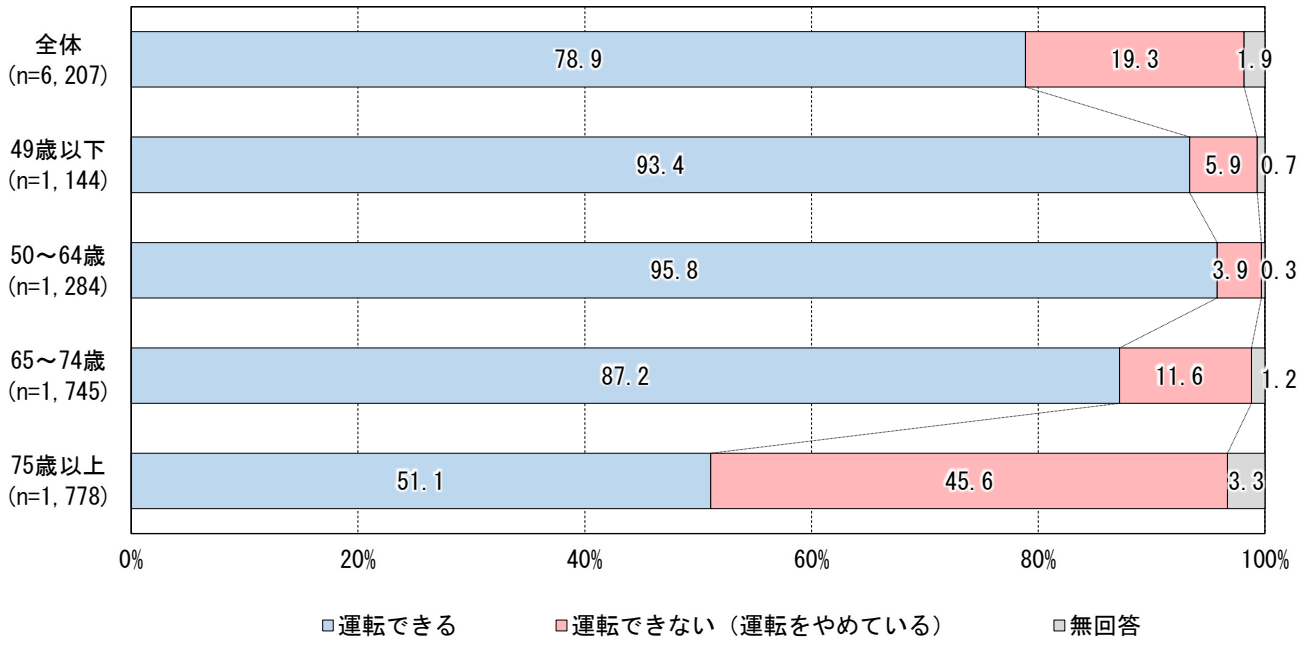
問10　最も利用する移動手段はなにか。



（自動車の運転状況）

74歳以下では概ね90％以上が自動車を「運転できる」と回答しているが、75歳以上では51.1％と低くなっている。

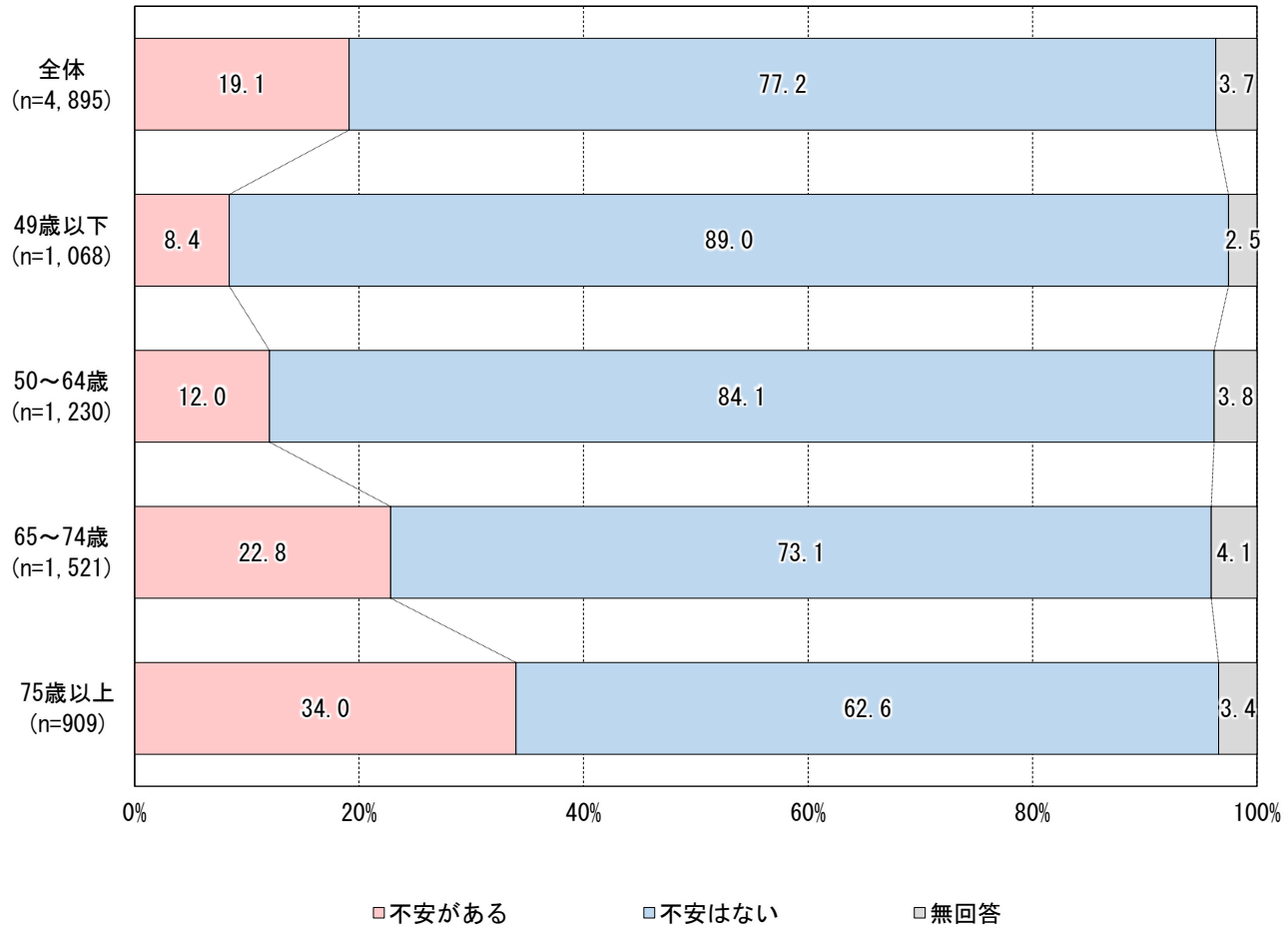
問11　自動車の運転はできるか。



（自動車の運転に対する不安）

自動車の運転ができる人では、運転に「不安がある」と回答した人は19.1％となっている。年齢別にみると、年齢層が上がるにつれて「不安がある」と回答する割合が高くなっており、75歳以上では34％となっている。

問12　自動車を運転することに不安があるか。

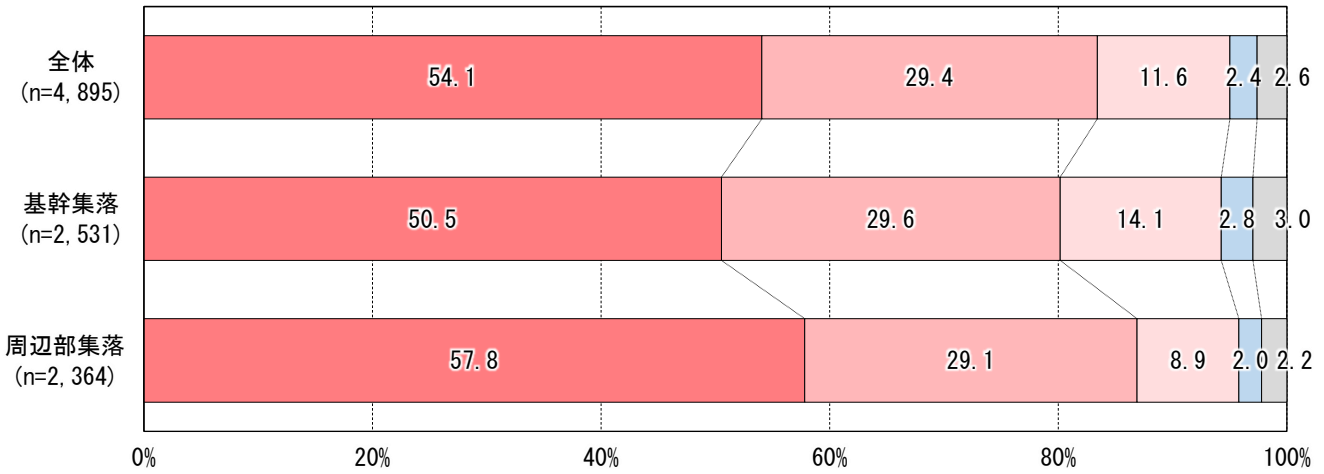


（自動車の運転ができなくなった場合の暮らしへの影響）

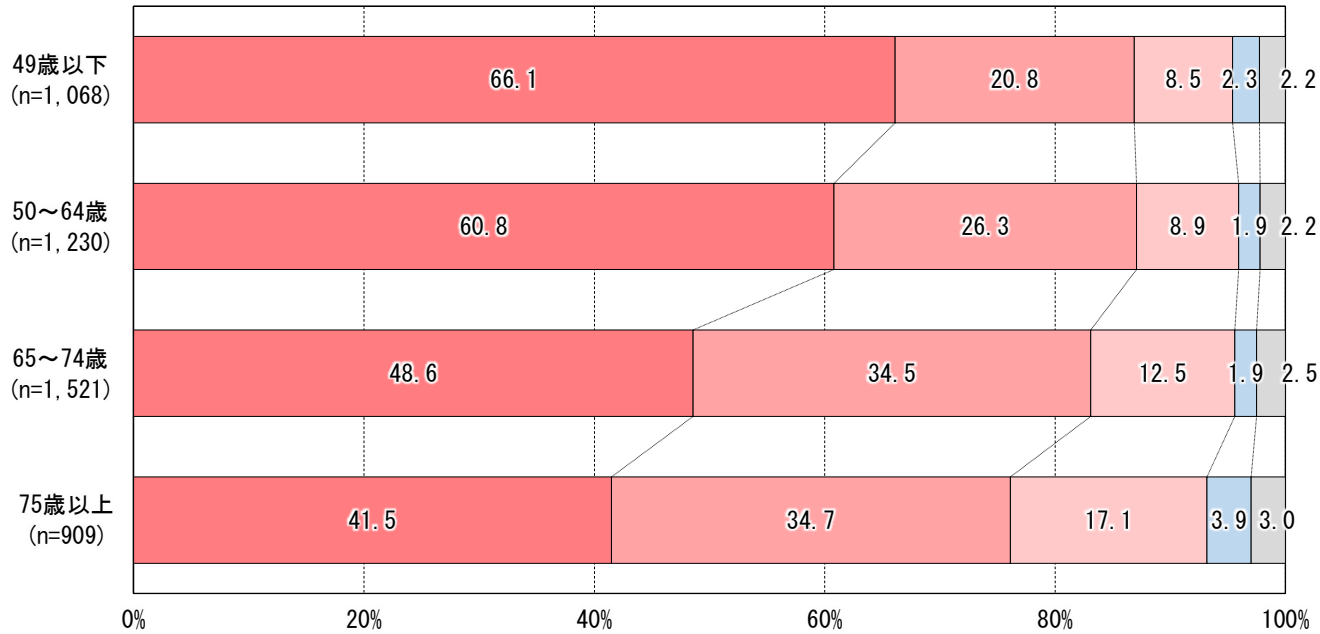
自動車の運転ができる人では、運転ができなくなった場合の暮らしへの影響を懸念する声は多く、54.1%の人は運転ができなくなると「とても不便になり、暮らしにくくなる」と回答している。また、基幹集落と比べて周辺部集落の住民のほうが「とても不便になり、暮らしにくくなる」と回答する割合が高くなっている。

年齢別にみると、年齢層が下がるにつれて、「とても不便になり、暮らしにくくなる」と回答する割合が高くなっている。

問13　自動車の運転ができなくなった場合、暮らしへの影響はどの程度あるか。



（年齢別）



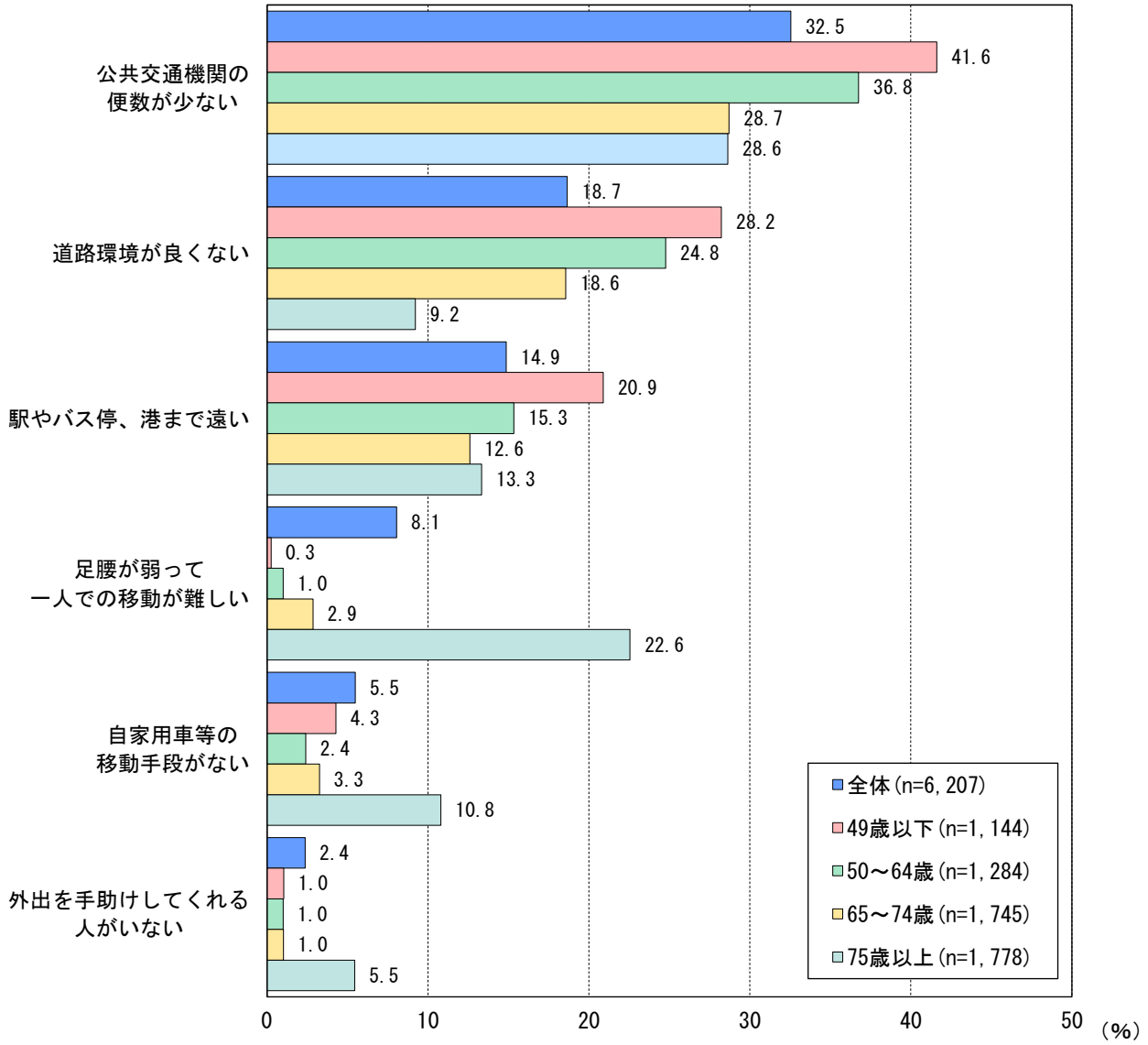
■とても不便になり、暮らしにくくなる
■不便になり、不安なことは多くなるが、暮らすことができる
■やや不便にはなるが、大きな問題はなく暮らすことができる
■あまり影響はなく、現在と変わりなく暮らすことができる
■無回答

（外出の際に困っていること）

「公共交通機関の便数が少ない」と回答した人が32.5%と最も高くなっている。

また、年齢別にみると、75歳以上で「足腰が弱って一人での移動が難しい」が22.6%と高くなっている。

問14　外出の際に困っていることはなにか。（複数回答）



■ヒアリング調査での主な意見

・自動車での移動は生活に欠かせない。

・自動車の運転ができる人は多少の不便はあっても生活はできている。

・自動車の運転ができなくなった時に生活していけるか不安。

・生活のことを考えると免許返納はしづらい。

・運転に自信がなくなってきたので、運転しやすい大きな道路や駐車場の広い店舗を利用している。

・バスの便数が少ないため、通院時に往路はバス、復路はタクシーを利用せざるをえない。

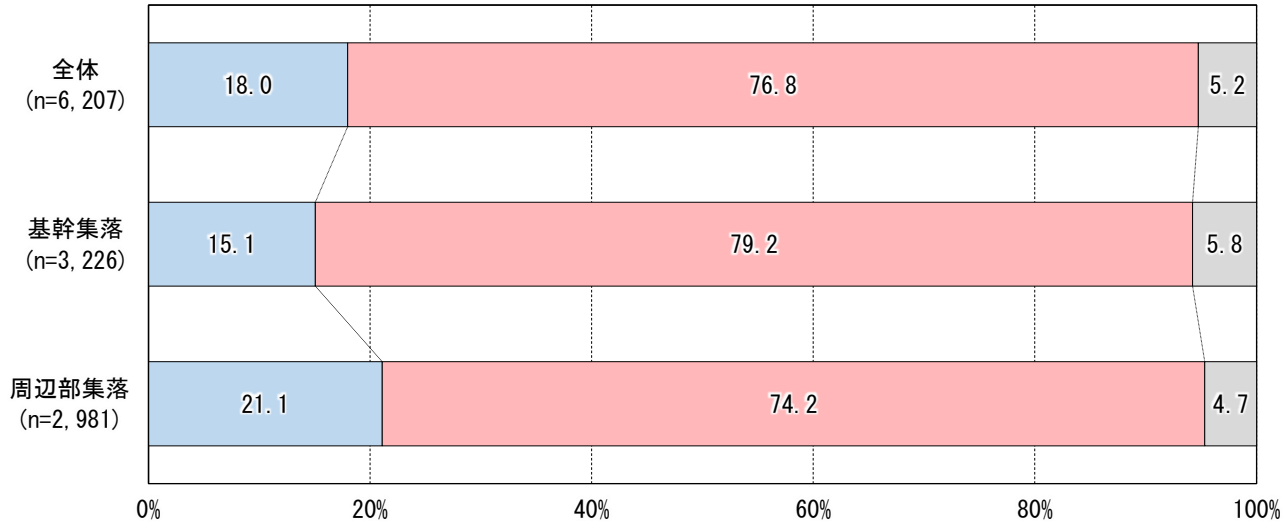
・バス停までの距離が遠いため、バスではなくてタクシーを利用するが、金銭的な負担が大きい。

（３）移動販売、通信販売等の利用状況

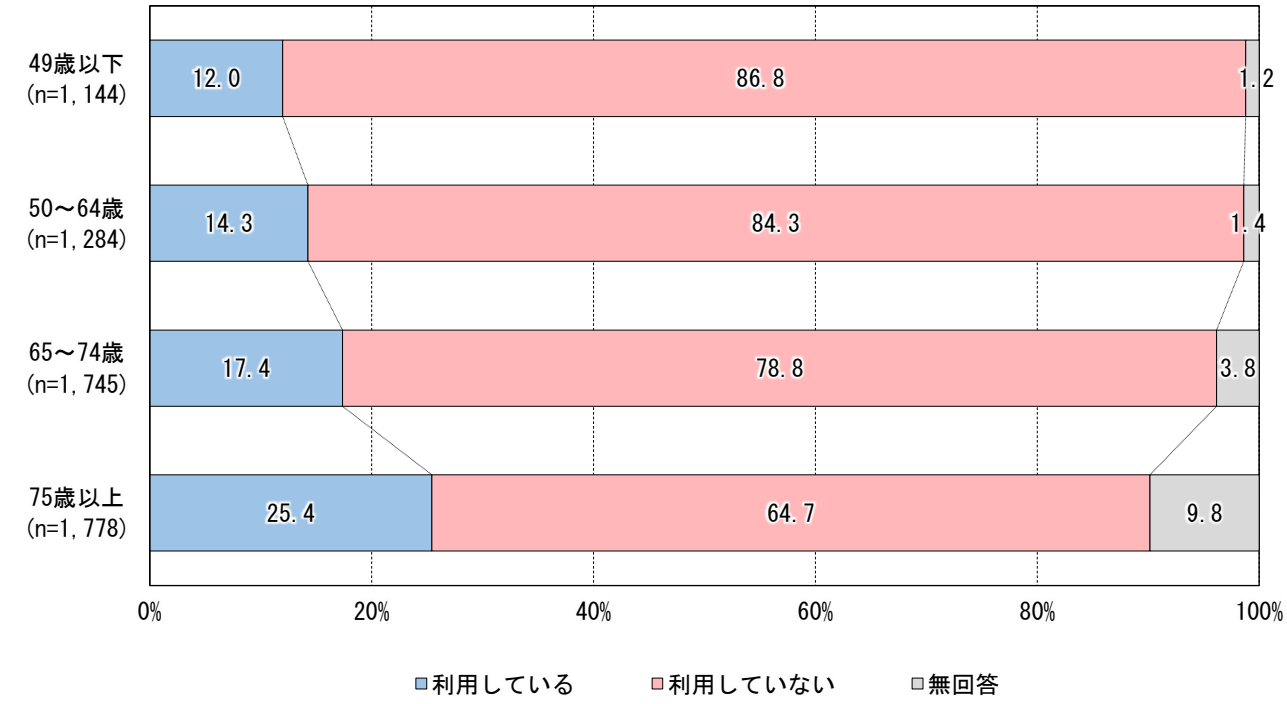
（移動販売の利用状況）

移動販売を「利用している」と回答した人は18％であり、基幹集落よりも周辺部集落の住民のほうが、「利用している」と回答した人の割合が高くなっている。また、年齢層が上がるにつれて、利用割合が高くなっており、75歳以上では「利用している」と回答した人は25.4％となっている。

問15　移動販売を利用しているか。

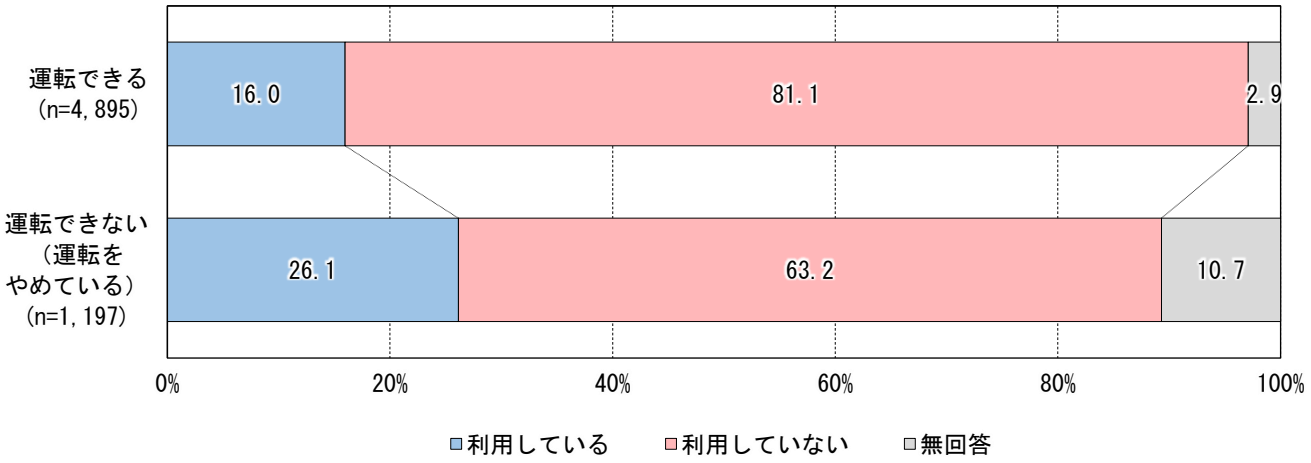


（年齢別）



（移動販売の利用と自動車の運転の関係）　※問11と問15の結果から集計

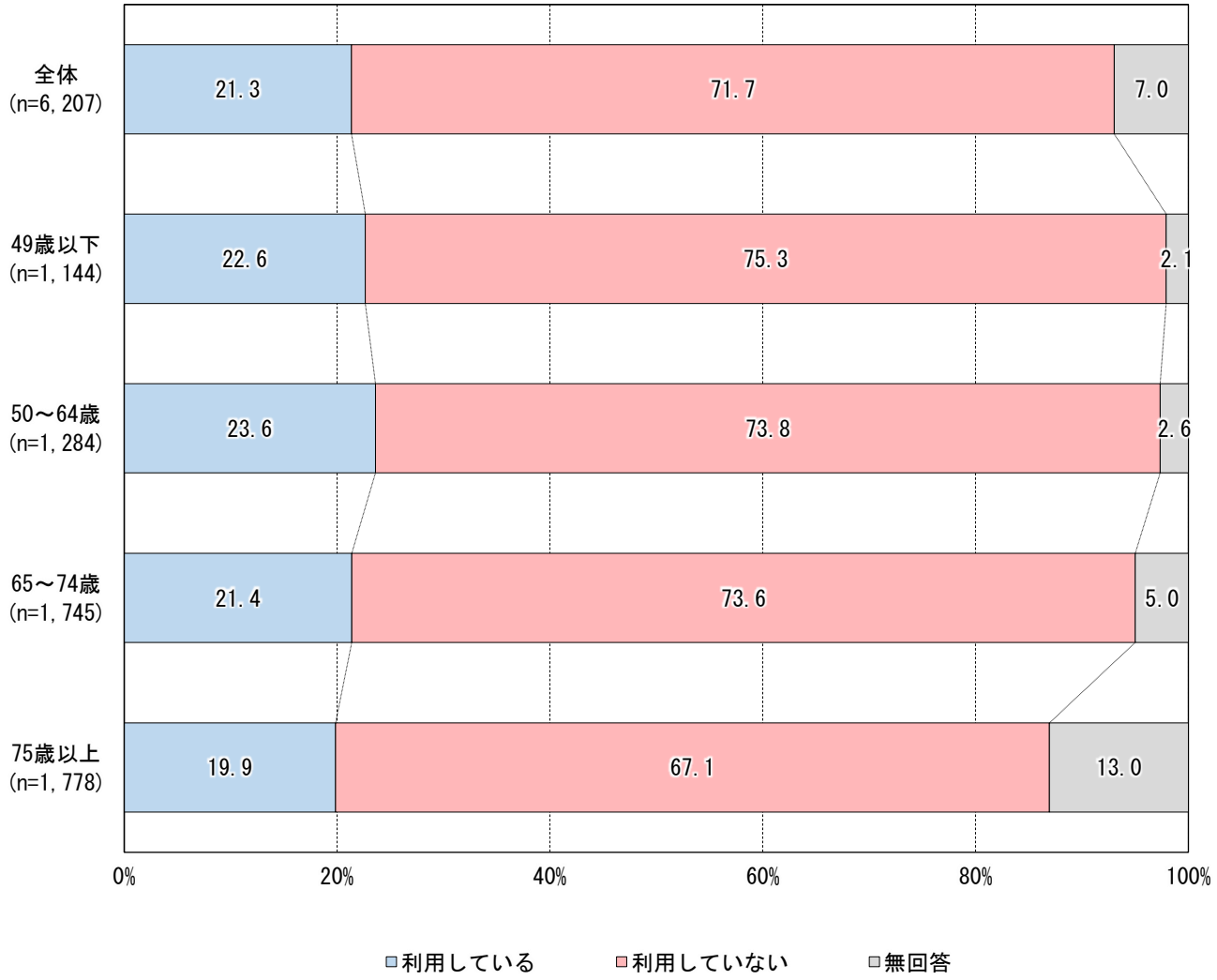
自動車を「運転できる」人よりも「運転できない（やめている）」人のほうが、移動販売を「利用している」と回答した割合が高くなっている。



（食材配達の利用状況）

食材配達を「利用している」人は、21.3%となっている。

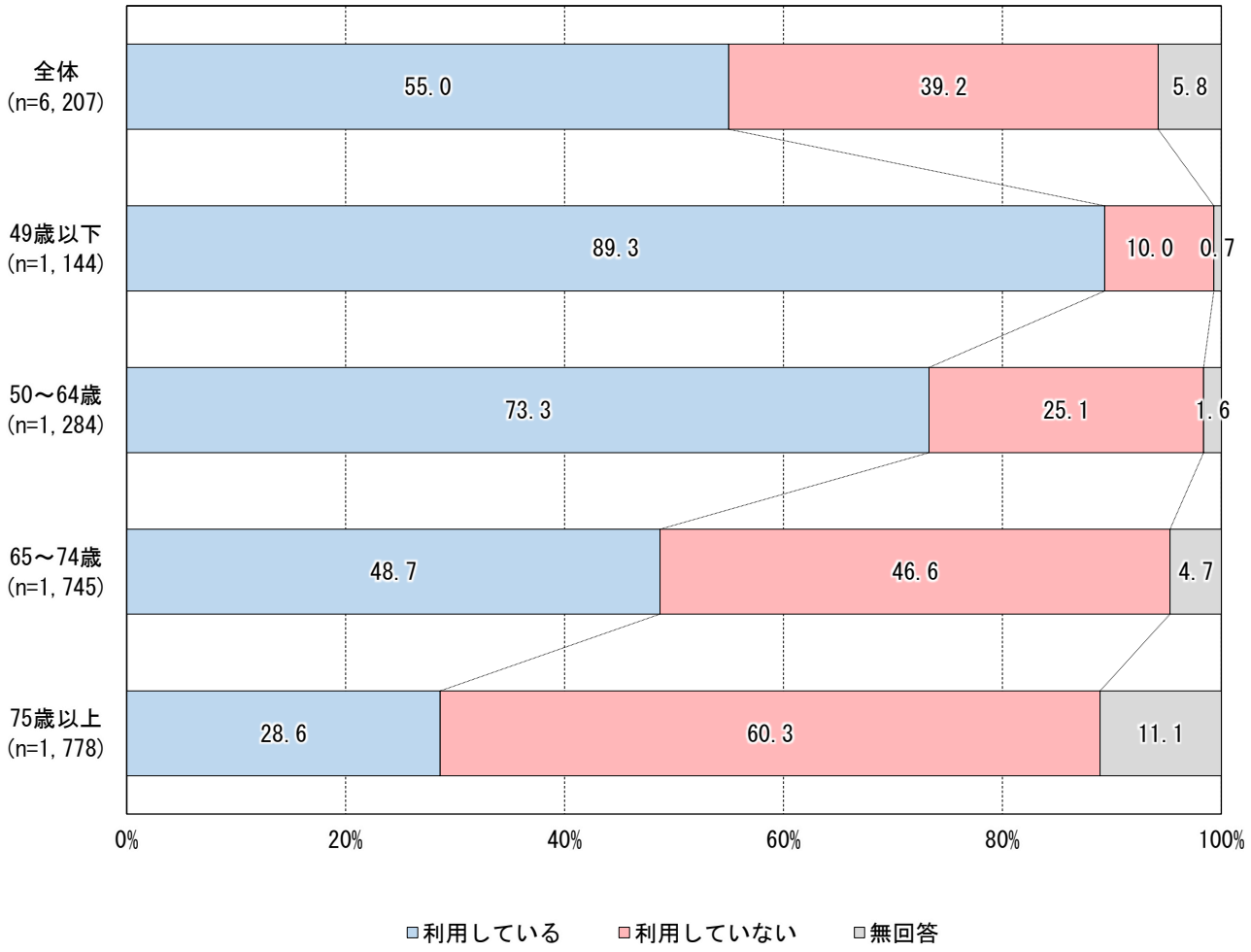
問16　食材配達を利用しているか。



（通信販売の利用状況）

通信販売を「利用している」人の割合は年齢層が下がるにつれて高くなり、49歳以下では89.3%の人が利用している。

問17　通信販売を利用しているか。



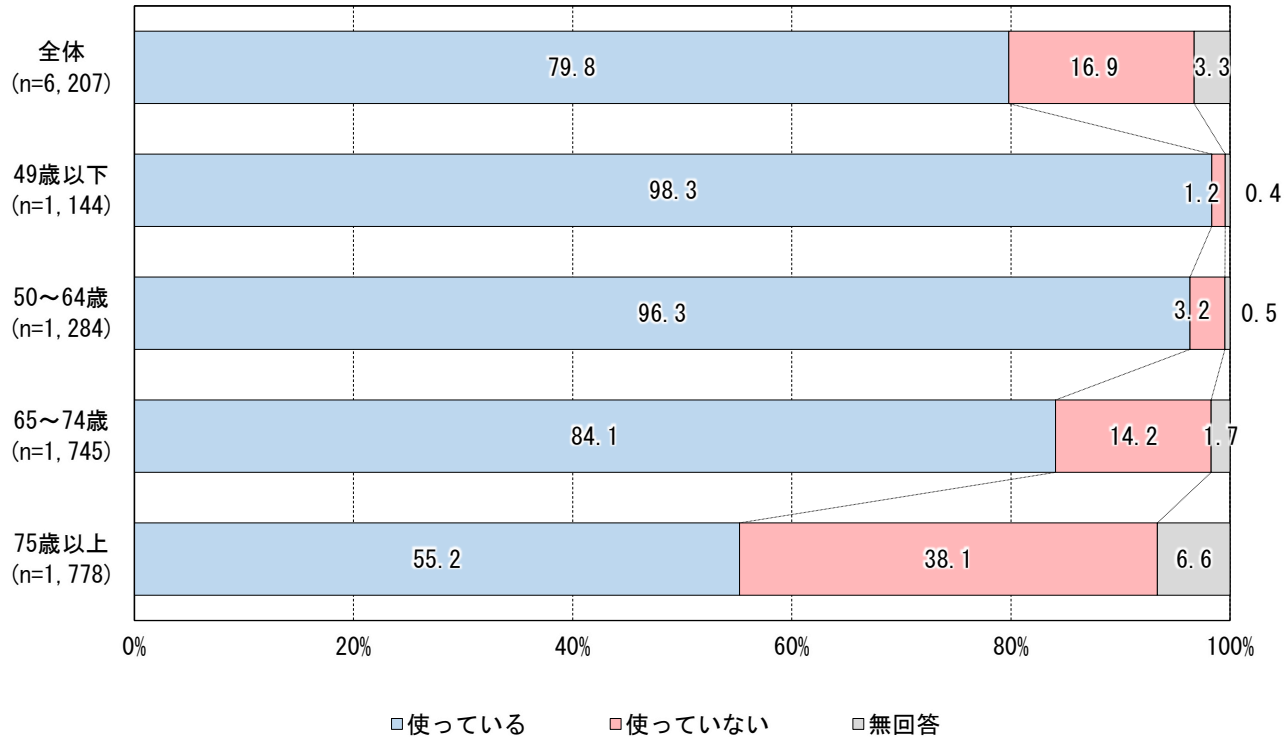
■ヒアリング調査での主な意見

・高齢者や自動車を運転できない人にとって、移動販売や食材配達は重要な買い物手段となっている。
・移動販売は買い物手段であるだけでなく、社交場にもなっている。
・自宅まで届けてくれて助かるので、店舗での買い物に加えて食材配達も利用している。
・近隣で衣料品を買うところがないので、通信販売で買うことも多い。

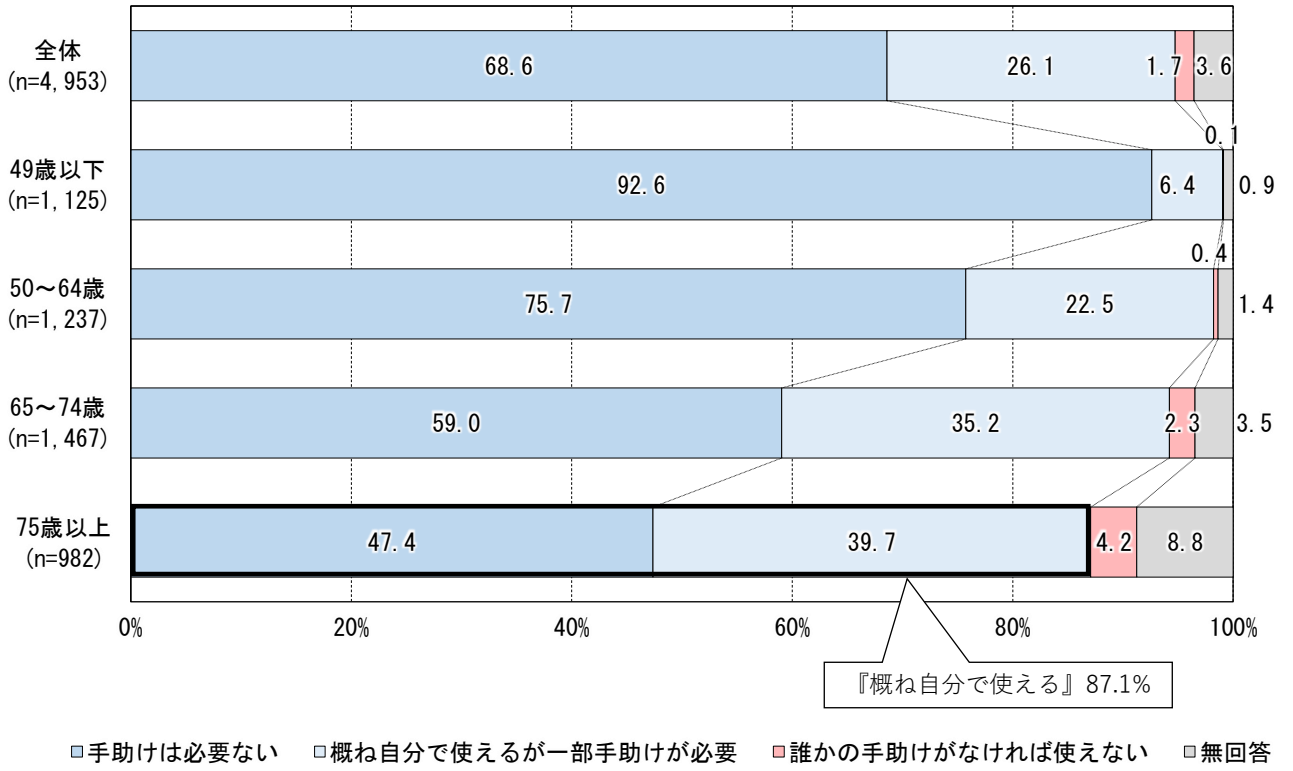
（携帯電話の利用状況）

携帯電話（スマートフォン）を「使っている」人の割合は、年齢層が下がるにつれて高くなっている。75歳以上でも55.2％と半数以上が利用しており、そのうち87.1％の人が『概ね自分で使える』（「手助けは必要ない」「概ね自分で使えるが一部手助けが必要」の計）と回答している。

問18　携帯電話（スマートフォンを含む）を利用しているか。



問19　携帯電話（スマートフォンを含む）を利用する際、手助けが必要か。

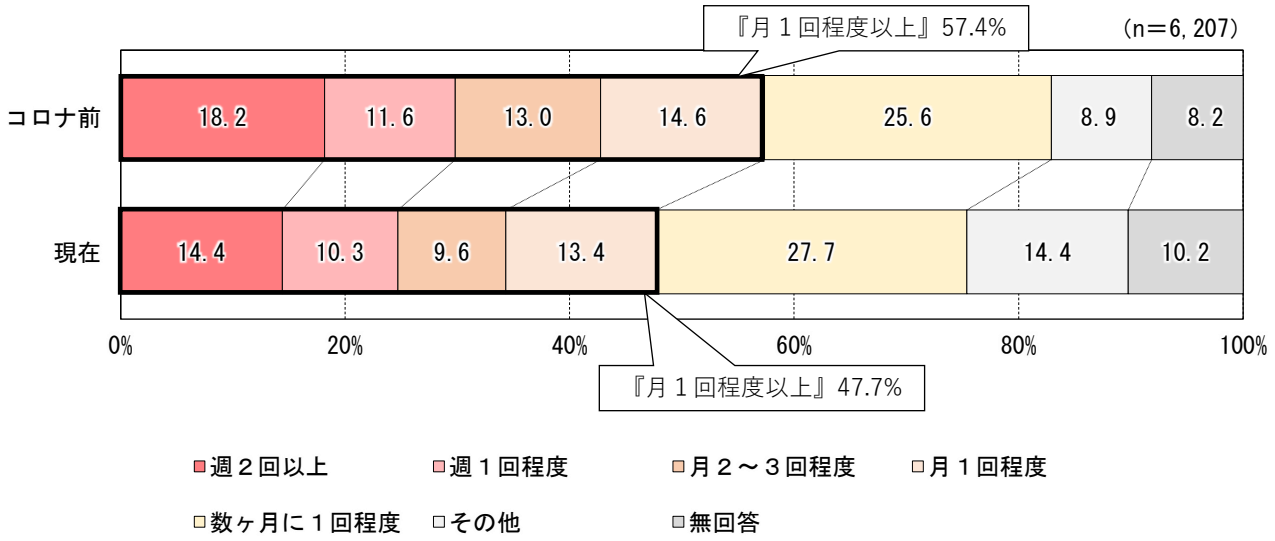


（４）別居の家族・親族からの手助け等

（別居の家族・親族と日常的に会う頻度）

最も親しい別居の家族・親族との日常的な交流頻度について、コロナ前（令和２年４月以前）では『月１回程度以上』（「週２回以上」「週１回程度」「月２～３回程度」「月１回程度」の計）の人は57.4％であったが、現在は47.7％となっており、低下している。

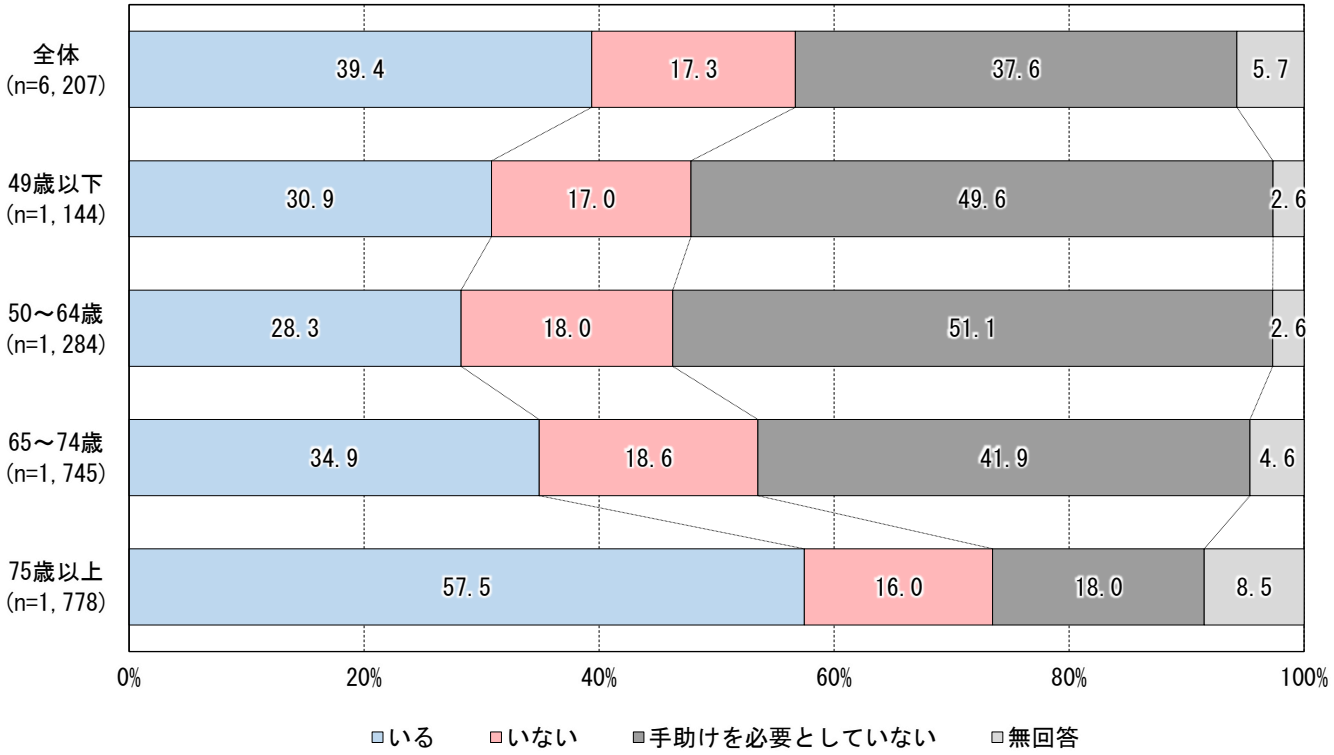
問20　最も親しい別居の家族・親族と日常的に会う頻度はどの程度か。



（生活を手助けしてくれる別居の家族・親族）

生活を手助けしてくれる別居の家族・親族がいる人は39.4％となっており、年齢別にみると、75歳以上で57.5％と最も高くなっている。

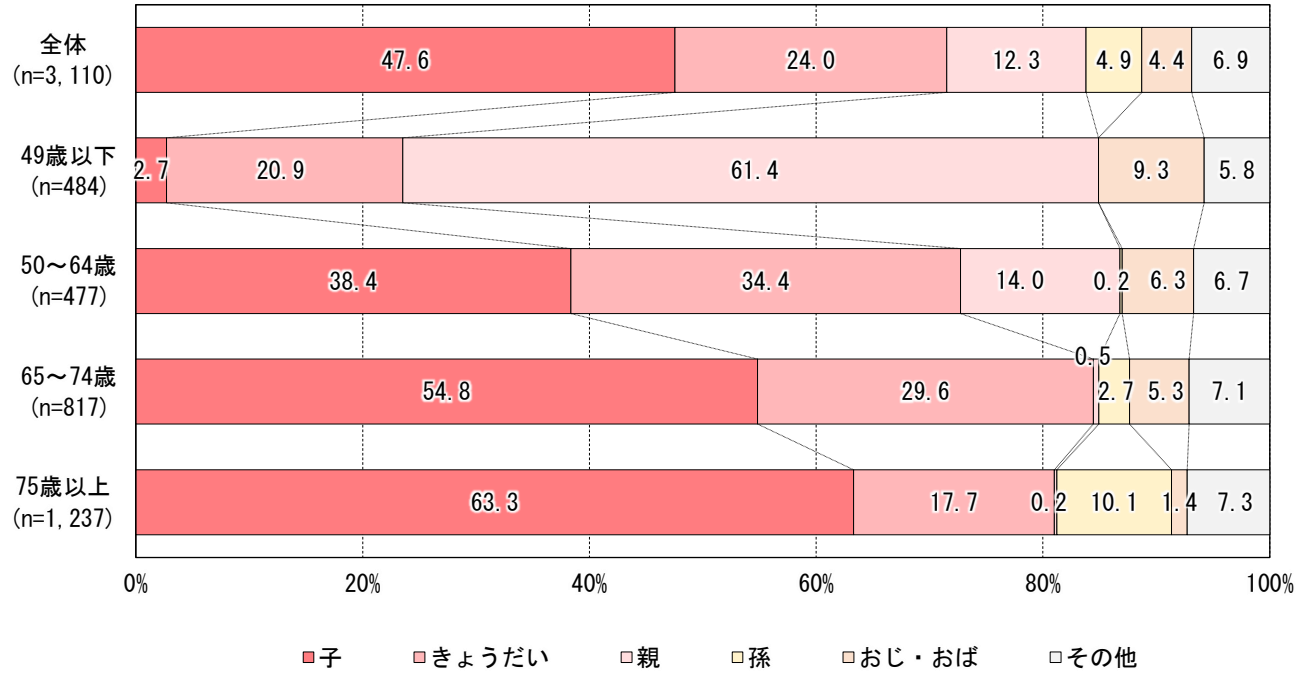
問21　別居の家族・親族で生活を手助けしてくれる人はいるか。



（最も手助けしてくれる人の続柄）

最も生活を手助けしてくれる人の続柄については、49歳以下では「親」と回答する割合が最も高く、50歳以上では「子」と回答する割合が最も高くなっている。

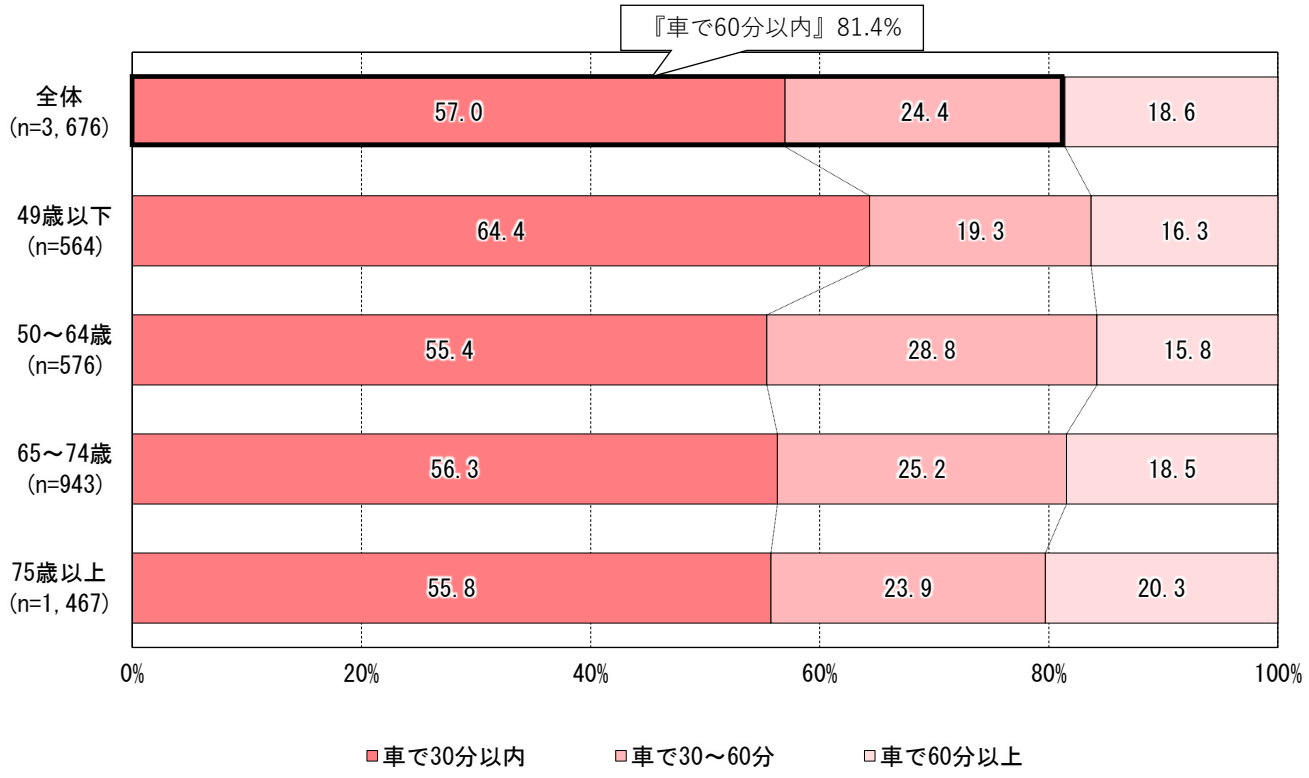
問22　最も生活を手助けしてくれる人（最大２人）はだれか。



（最も手助けしてくれる人の居住地域）

最も手助けしてくれる別居の家族・親族の57%は車で30分以内の地域に、81.4%は『車で60分以内』（「車で30分以内」「車で30～60分」の計）の地域に居住している。

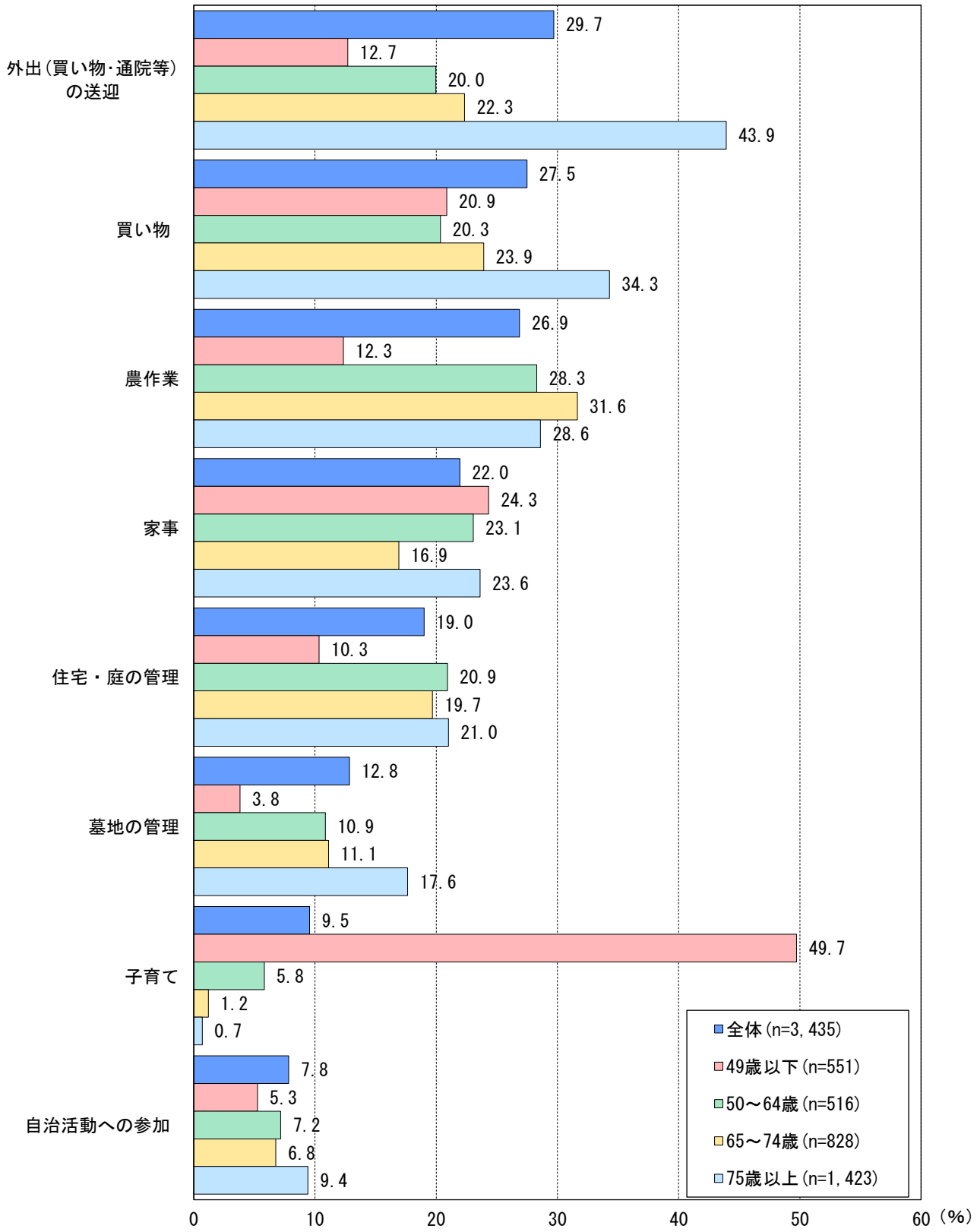
問23　最も生活を手助けしてくれる人（最大２人）は車でどの程度で行き来できる場所に住んでいるか。



（最も手助けしてくれる人にお願いする内容）

別居の家族・親族に手助けをお願いしている内容については、49歳以下では「子育て」と回答する割合が49.7％と最も高くなっている。また、75歳以上では「外出（買い物・通院等の送迎）」が最も高く43.9％であり、次いで「買い物」が34.3％と高くなっている。

問24　最も手助けをしてくれる人（最大２人）にお願いしている内容はなにか。（複数回答）

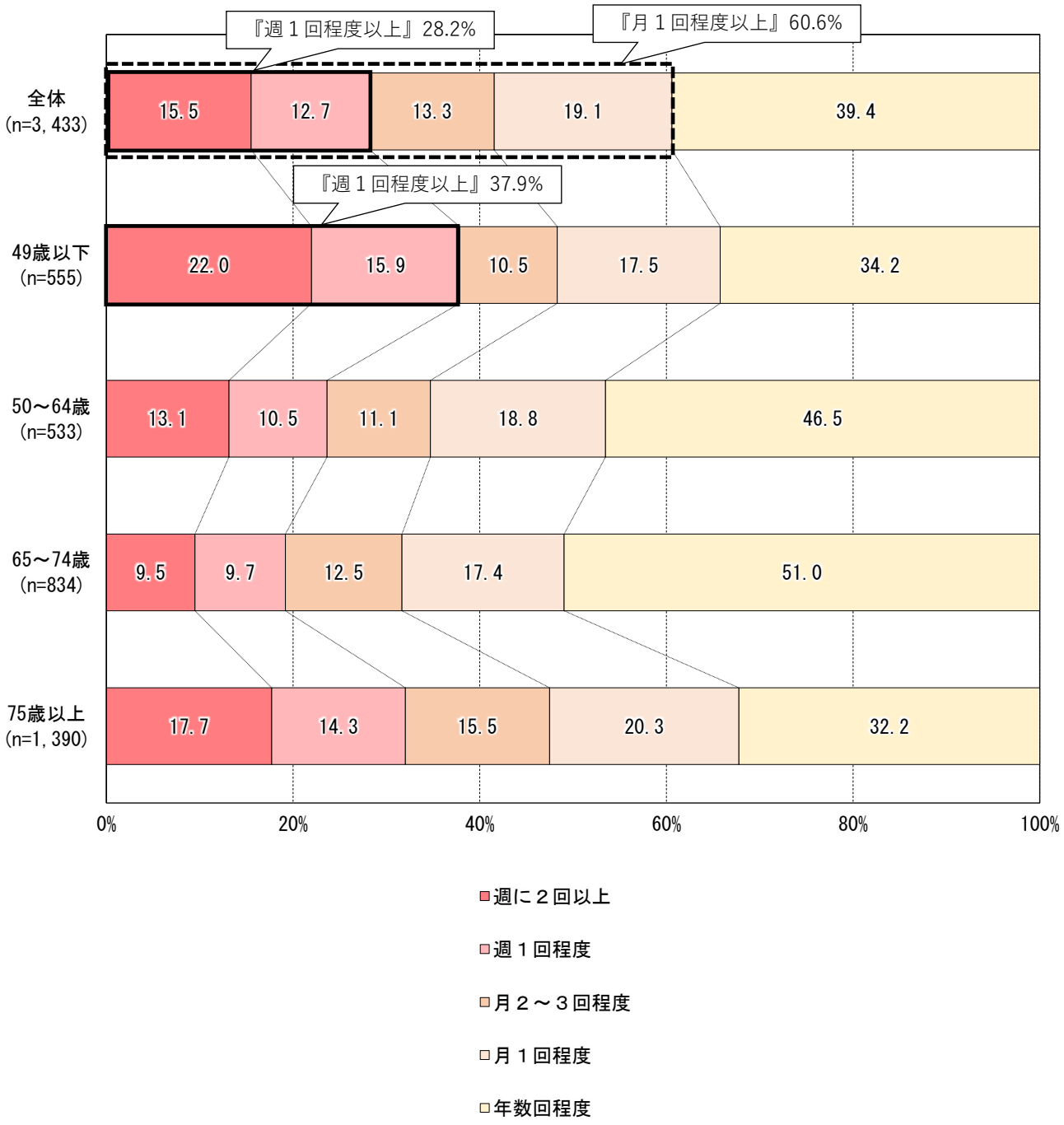


（最も手助けしてくれる人にお願いする頻度）

別居の家族・親族に『週１回程度以上』（「週に２回以上」「週１回程度」の計。以下同じ）の手助けをお願いする人は28.2％となっており、『月１回程度以上』（「週に２回以上」「週１回程度」「月２～３回程度」「月１回程度」の計）では60.6％となっている。

また、年齢別にみると、49歳以下では『週１回程度以上』が37.9％と高くなっている。

問25　最も生活を手助けしてくれる人（最大２人）の手助けの頻度はどの程度か。

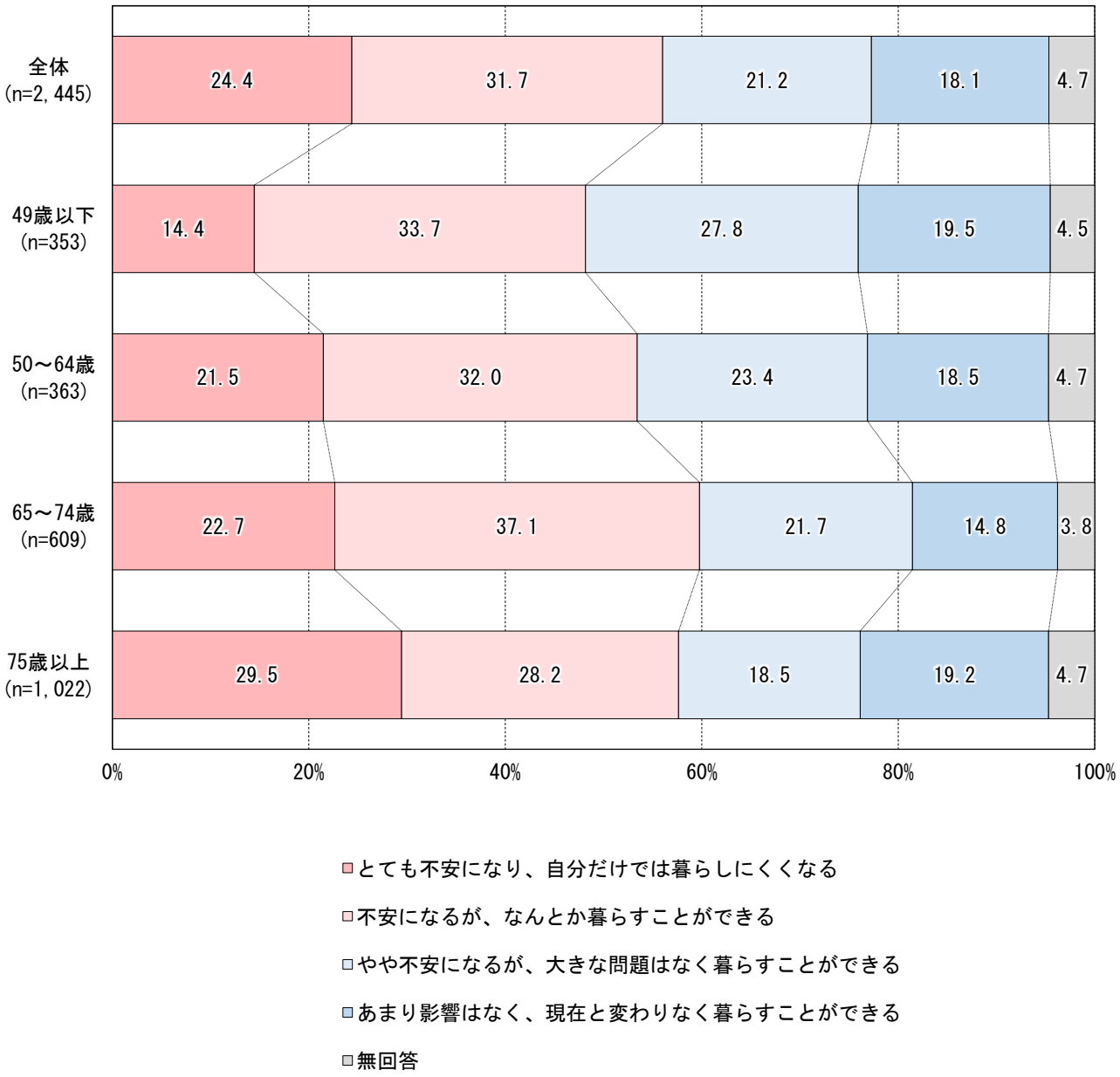


（手助けをしてもらう回数が減った場合等の暮らしへの影響）

手助けを受けている人が、今後、手助けしてもらう回数が減ったり、手助けしてもらえなくなったりした場合の暮らしに与える影響については、24.4%が「とても不安になり、自分だけでは暮らしにくくなる」と回答している。

また、年齢別にみると、75歳以上で「とても不安になり、自分だけでは暮らしにくくなる」と回答した人が29.5%と高くなっている。

問26　手助けをしてもらう回数が減ったり、手助けしてもらえなくなった場合、暮らしに影響があるか。



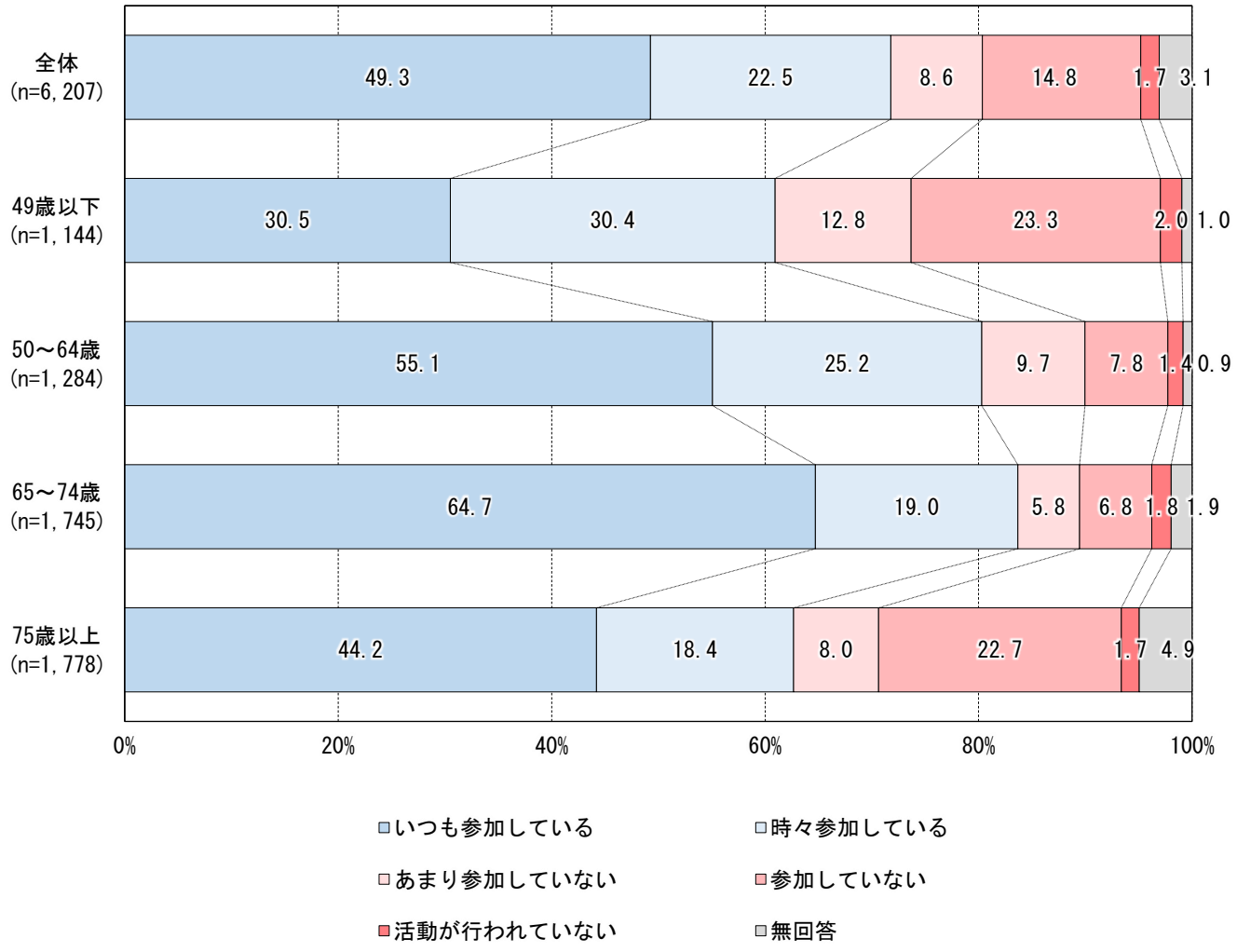
（５）自治会等の活動

（自治会等への参加状況）

自治会等の活動への参加状況をみると、「いつも参加している」が49.3％と最も高く、次いで「時々参加している」が22.5％となっている。

また、年齢別にみると、65～74歳で「いつも参加している」と回答した人が64.7％と高くなっている。

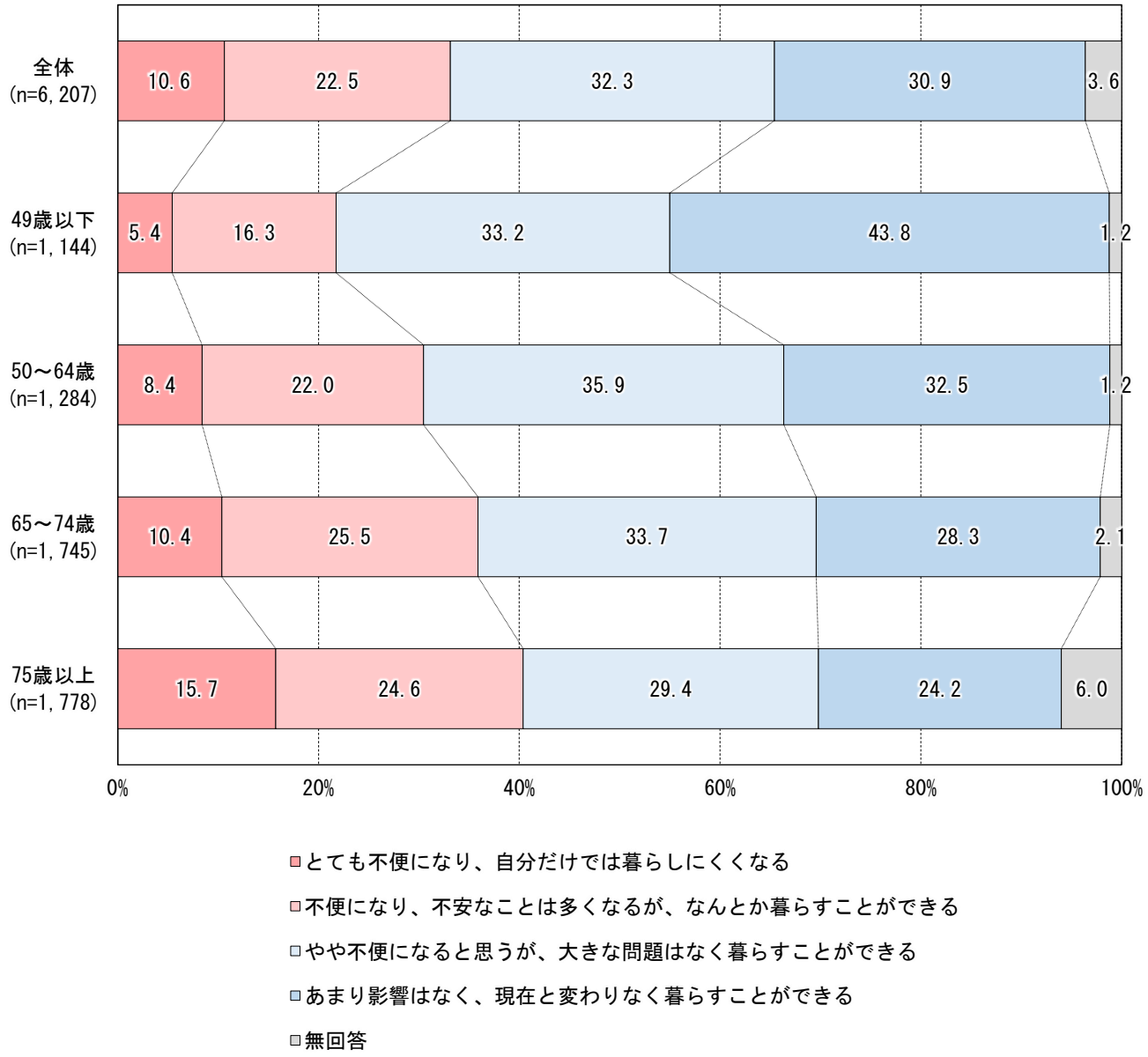
問27　自治会等の活動に参加しているか。



（自治会等の活動が低下した場合等の暮らしへの影響）

自治会等の活動が低下または休止した場合の暮らしへの影響については、10.6%が「とても不便になり、自分だけでは暮らしにくくなる」と回答している。また、年齢層が上がるにつれて、「とても不便になり、自分だけでは暮らしにくくなる」と回答する割合が高くなっている。

問28　自治会等の活動が低下したり、休止となった場合、暮らしに影響があるか。



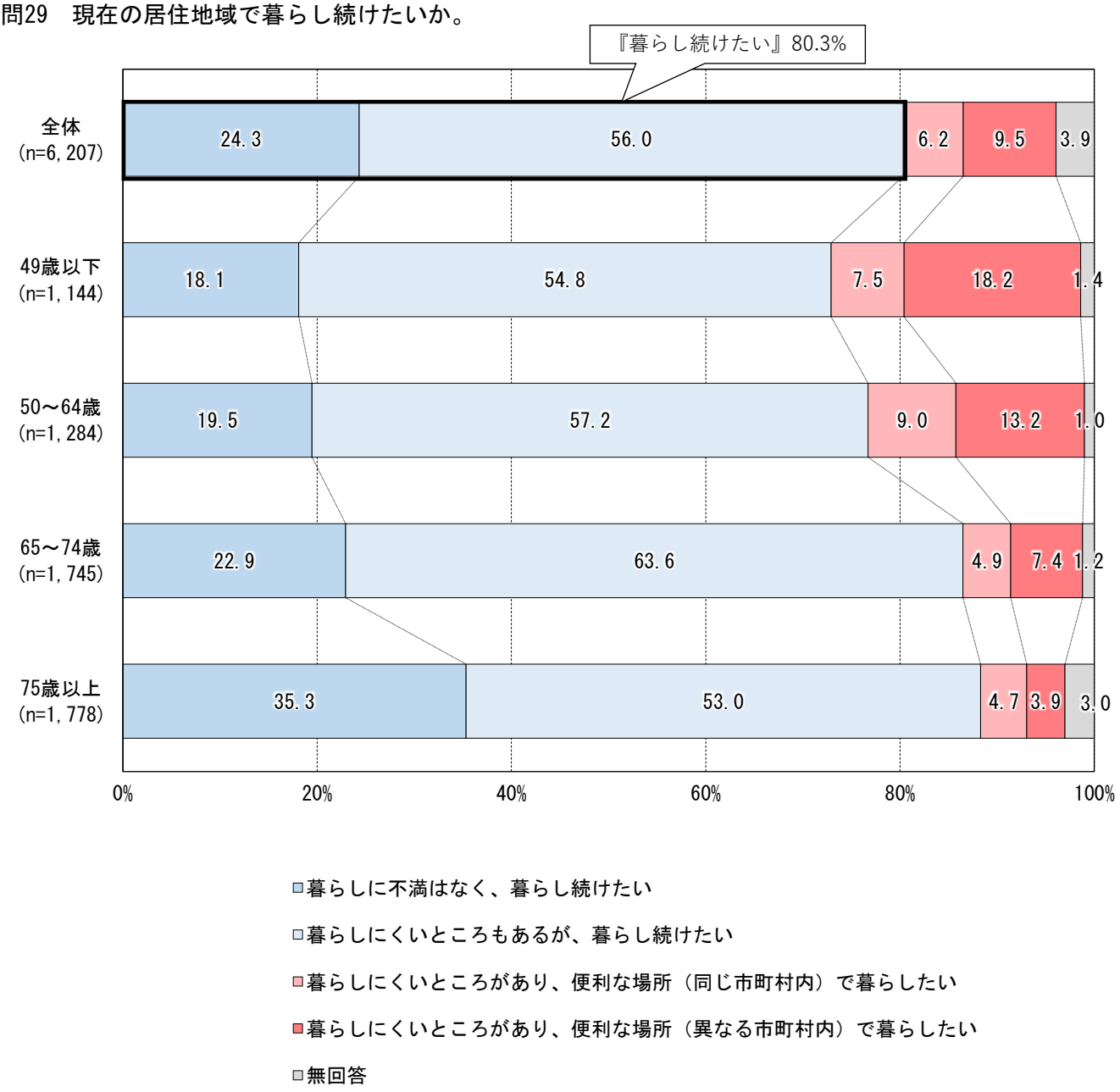
（６）今後の居住意向、幸福感等

（今後の居住意向）

80.3%の人が、現在の居住地域で『暮らし続けたい』（「暮らしに不満はなく、暮らし続けたい」「暮らしにくいところもあるが、暮らし続けたい」の計。以下同じ）と回答している。

また、年齢別にみると、年齢層が上がるにつれて、『暮らし続けたい』と回答する割合が高くなっている。

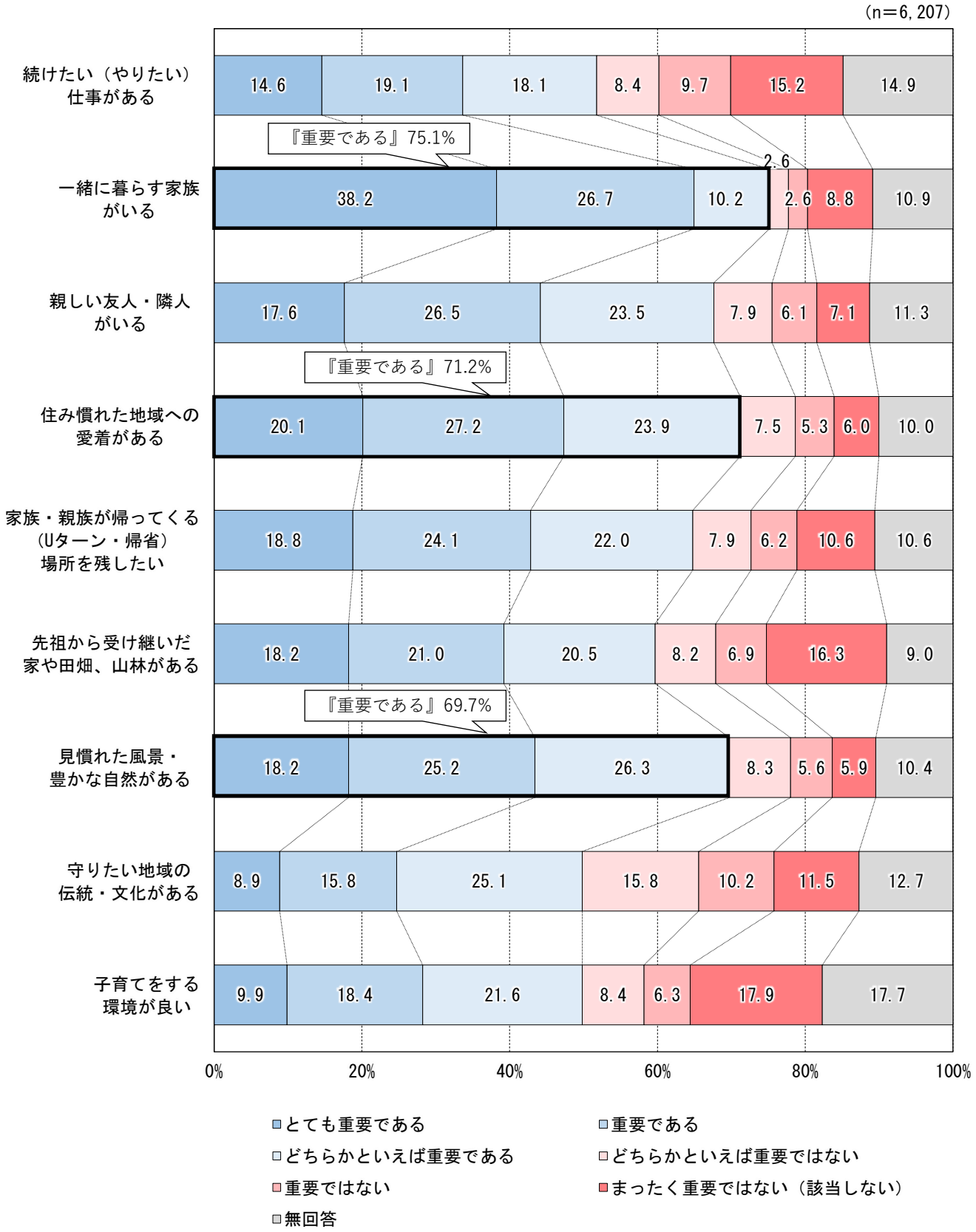
問29　現在の居住地域で暮らし続けたいか。



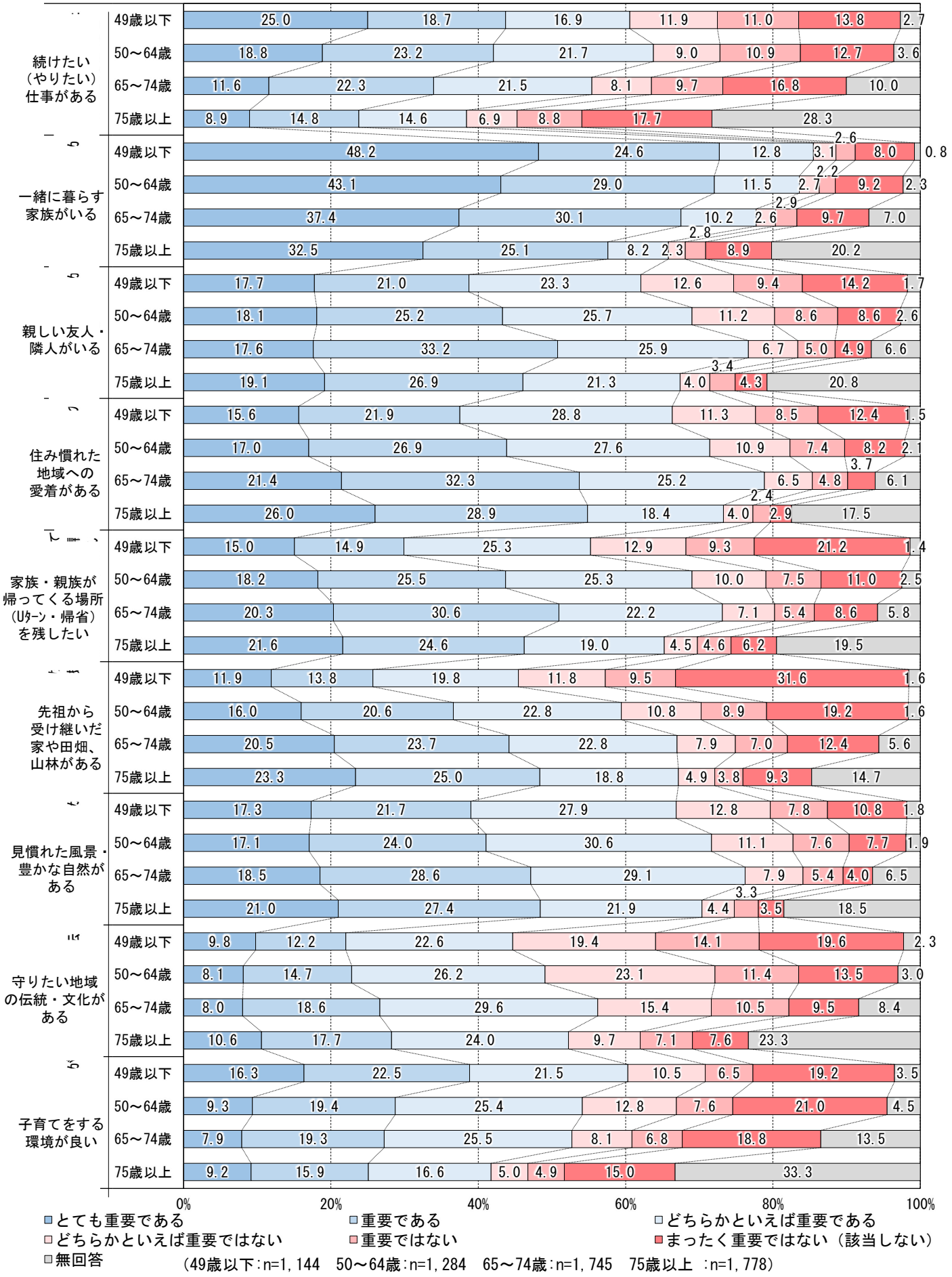
（現在の居住地域で暮らしている理由）

「一緒に暮らす家族がいる」ことが『重要である』（「とても重要である」「重要である」「どちらかといえば重要である」の計。以下同じ）と回答した人は75.1％と最も高く、次いで「住み慣れた地域への愛着がある」が71.2％、「見慣れた風景・豊かな自然がある」が69.7％となっている。

問30　現在の居住地域で暮らし続けている理由として重要だと思っていることはなにか。



年齢別にみると、64歳以下では「一緒に暮らす家族がいる」を『重要である』と回答した割合が最も高く、65歳以上では「住み慣れた地域への愛着がある」が最も高くなっている。

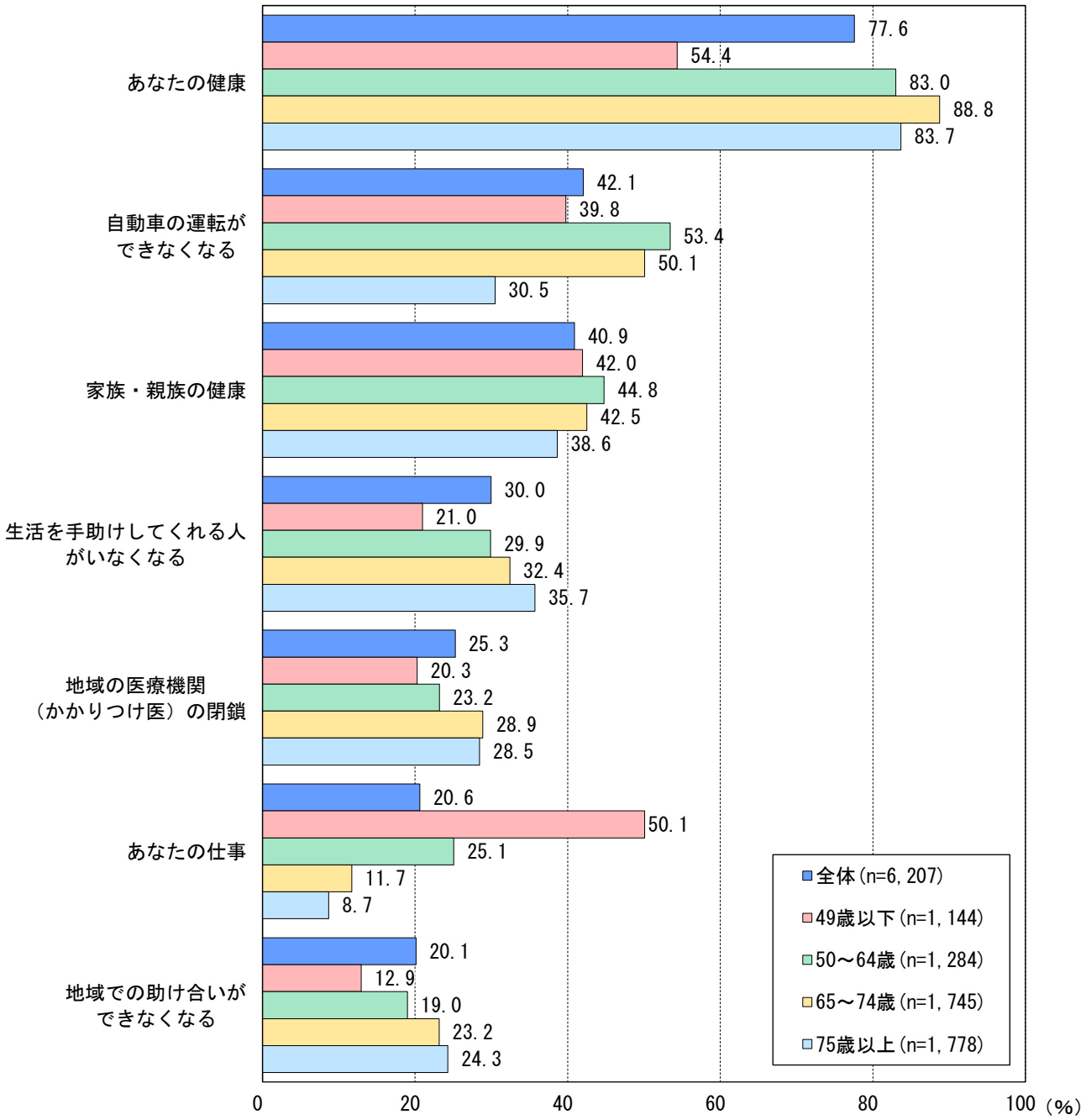


（49歳以下：n=1,144　50～64歳：n=1,284　65～74歳：n=1,745　75歳以上　：n=1,778）

（現在の居住地域で暮らし続けられなくなる原因）

現在の居住地域で住み続けられなくなる原因としては、「あなたの健康」が77.6%と最も高くなっている。生活に関連する項目でみると、「自動車の運転ができなくなる」が42.1%と高くなっており、「生活を手助けしてくれる人がいなくなる」が30%、「地域の医療機関の閉鎖」が25.3%、「地域での助け合いができなくなる」が20.1%となっている。

問31　仮に現在の居住地域で住み続けられなくなるとしたら、原因はどのようなことか。（複数回答）



■ヒアリング調査での主な意見

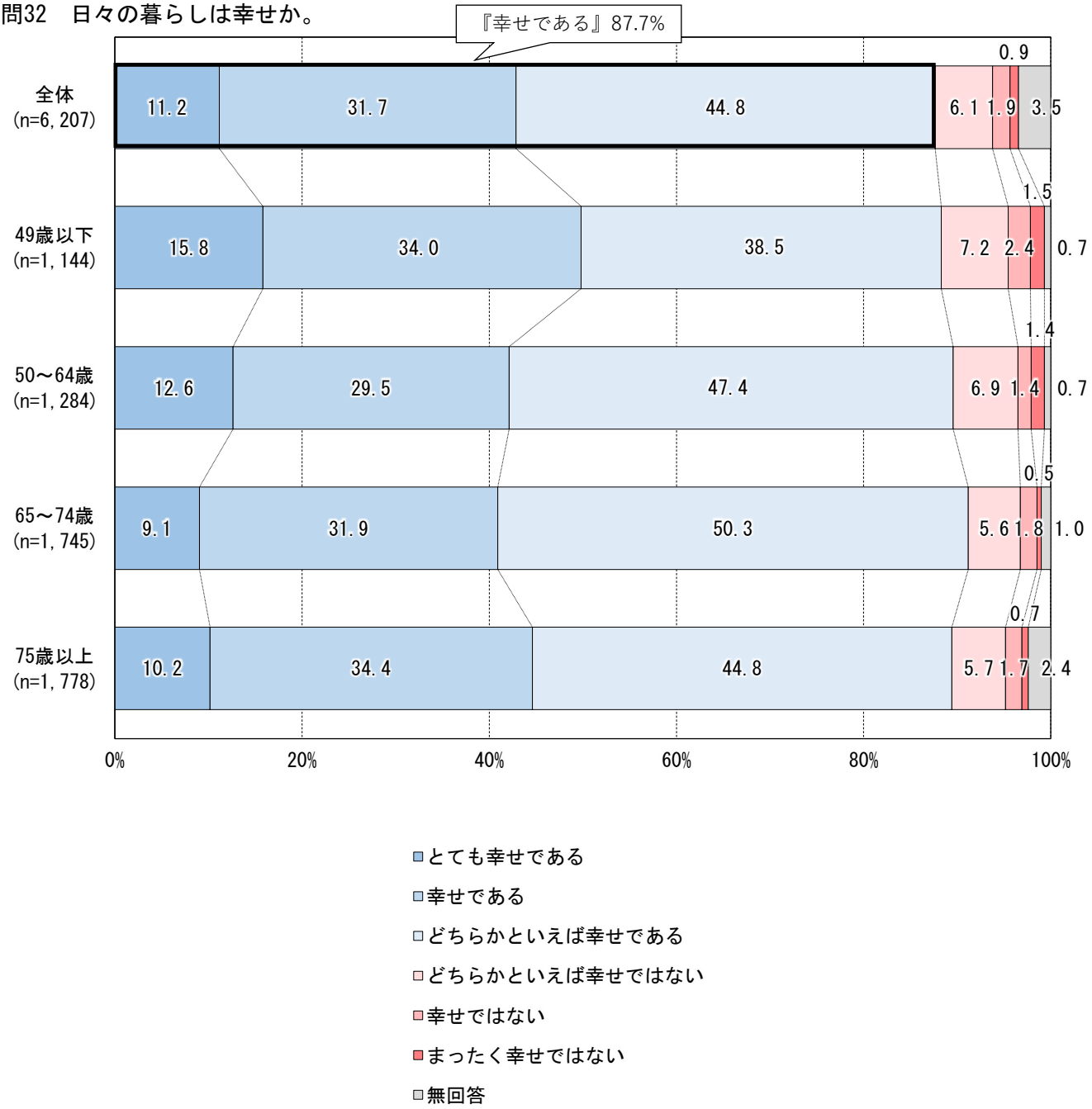
・地域住民のつながりが強く、お互いに見守り合う体制ができているため、安心して暮らしている。

・通院や買い物の移動、草刈り、雪かきなどに困っている人を地域で支える体制があり、助かっている。

（暮らしの幸福感）

日々の暮らしについて、87.7%が『幸せである』（「とても幸せである」「幸せである」「どちらかといえば幸せである」の計）と回答している。

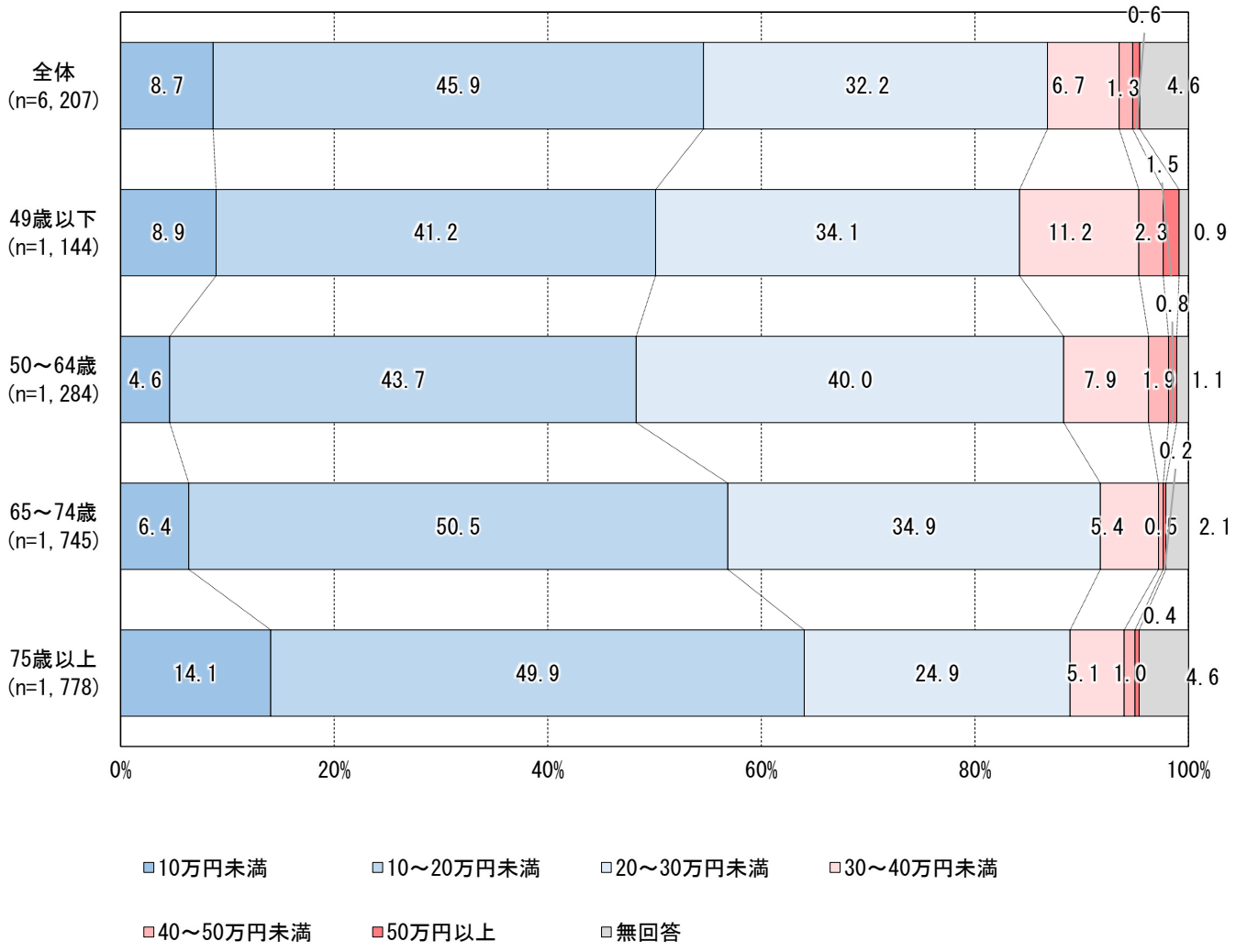
問32　日々の暮らしは幸せか。



（必要な生活費）

一ヶ月に必要な生活費については、「10～20万円未満」と回答する人が最も高く45.9%となっており、次いで「20～30万円」が32.2%となっている。

問33　現在の居住地域に住み続けるとしたら、月にどの程度の生活費が必要か。



＜調査で把握された地域の生活実態＞

- 買い物や通院など生活に関連する施設の主な利用先は、居住地域内（旧市町村内）が中心となっている。
- 住民の多くは主に自動車で移動しており、今後、運転ができなくなった際の暮らしへの影響を心配している。
- 高齢者や自動車を運転できない人にとって、移動販売は重要な買い物手段となっている。
- 近くに住んでいる家族等の手助けは、安心な暮らしを支える要因になっている。
- 自治会活動をはじめとした地域での助け合いが住民の暮らしを支えている。
- 50～64歳で今後の生活への不安感が高くなっている。

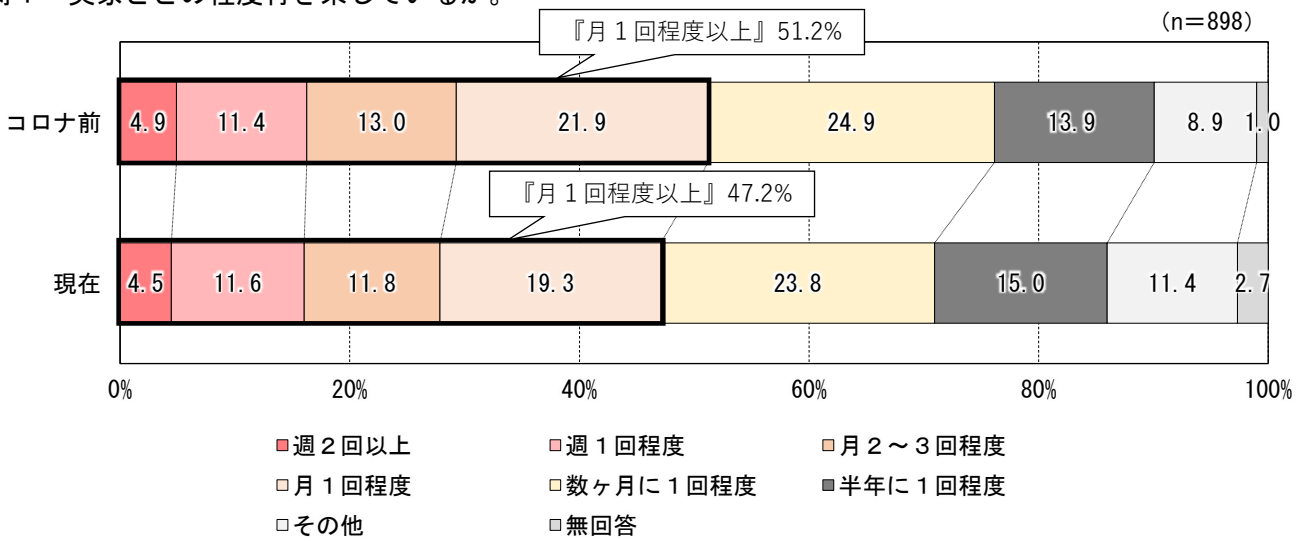
３　主な調査結果（出身者調査）

①実家への行き来の状況

（実家との行き来の頻度）

実家への行き来の頻度については、コロナ前（令和２年４月以前）は『月１回程度以上』（「週２回以上」「週１回程度」「月２～３回程度」「月１回程度」の計）と回答した人は51.2%であったが、現在は47.2%と、低下している。

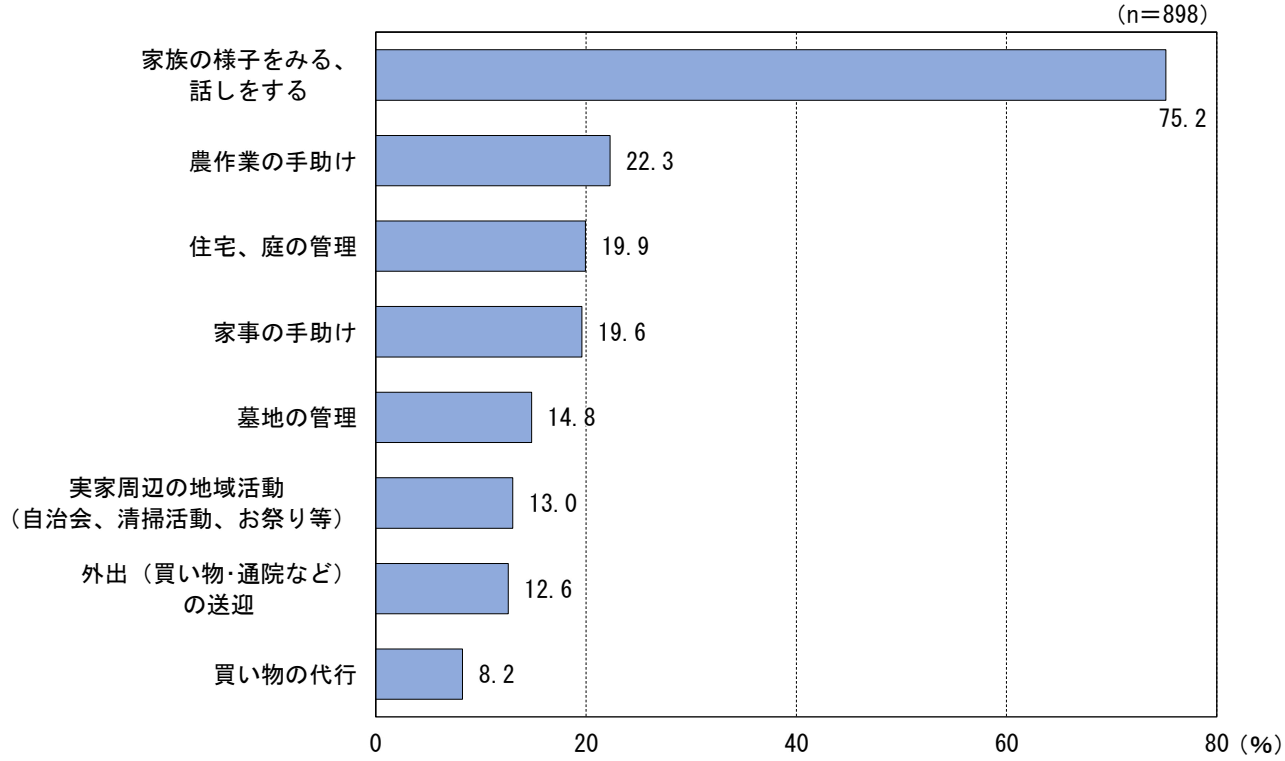
問１　実家とどの程度行き来しているか。



（実家へ行く目的）

実家へ行く目的としては、「家族の様子をみる、話しをする」が75.2%と最も高く、「農作業の手助け」が22.3%となっている。また、日常生活に関することとしては、「家事の手助け」が19.6%、「外出（買い物・通院など）の送迎」が12.6%、「買い物の代行」が8.2%となっている。

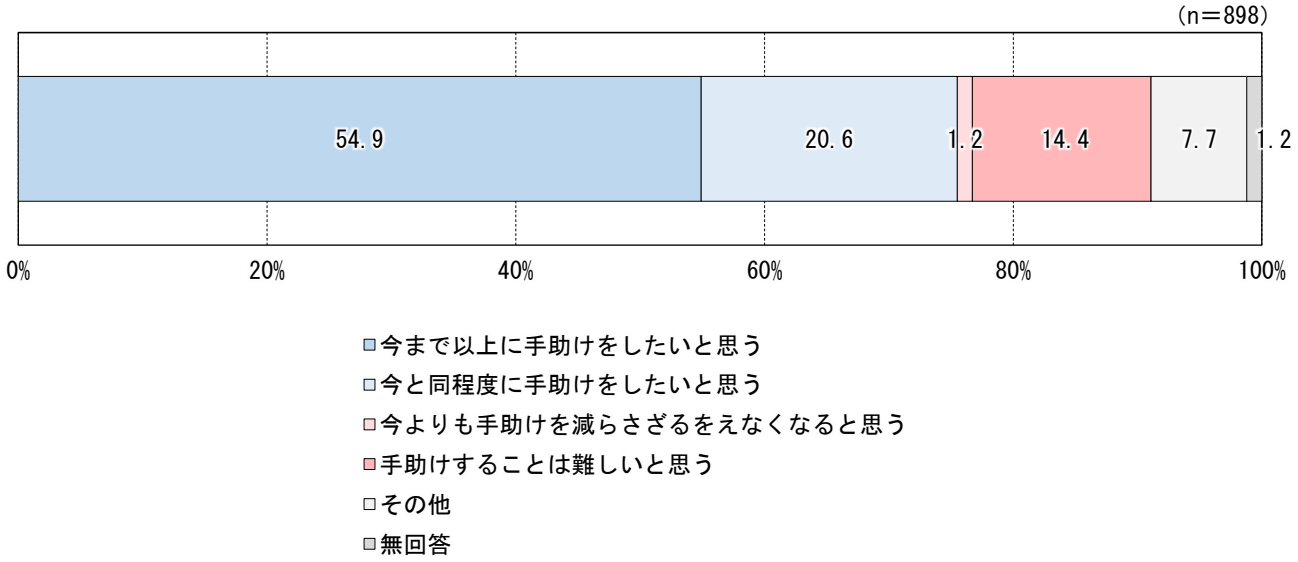
問２　実家へ行く目的にはどのようなことがあるか。



（今後の実家への手助け）

今後の実家への手助けについては、「今まで以上に手助けをしたいと思う」が54.9％で最も高く、次いで「今と同程度に手助けをしたいと思う」が20.6％となっている。

問３　今後、家族への手助けをどのようにしたいか。

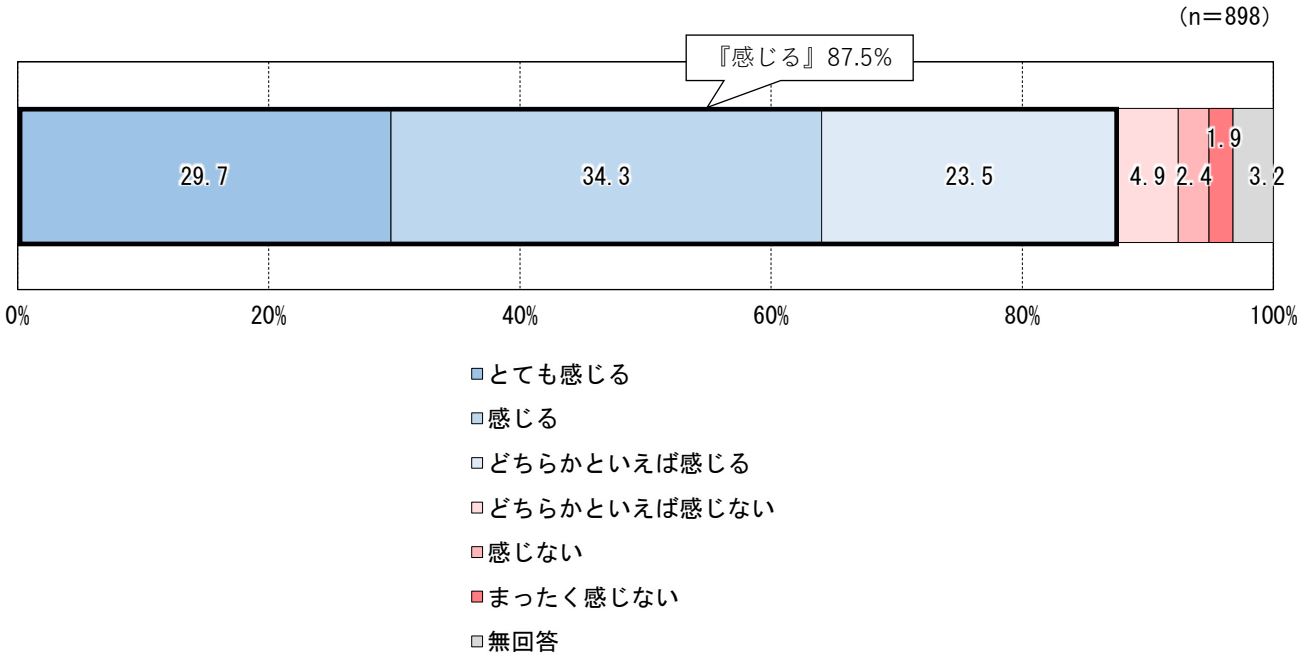


②ふるさとへの愛着、Ｕターンの意向

（ふるさとへの愛着）

87.5％の人が、ふるさと（実家のある地域）に愛着を『感じる』（「とても感じる」「感じる」「どちらかといえば感じる」の計）と回答している。

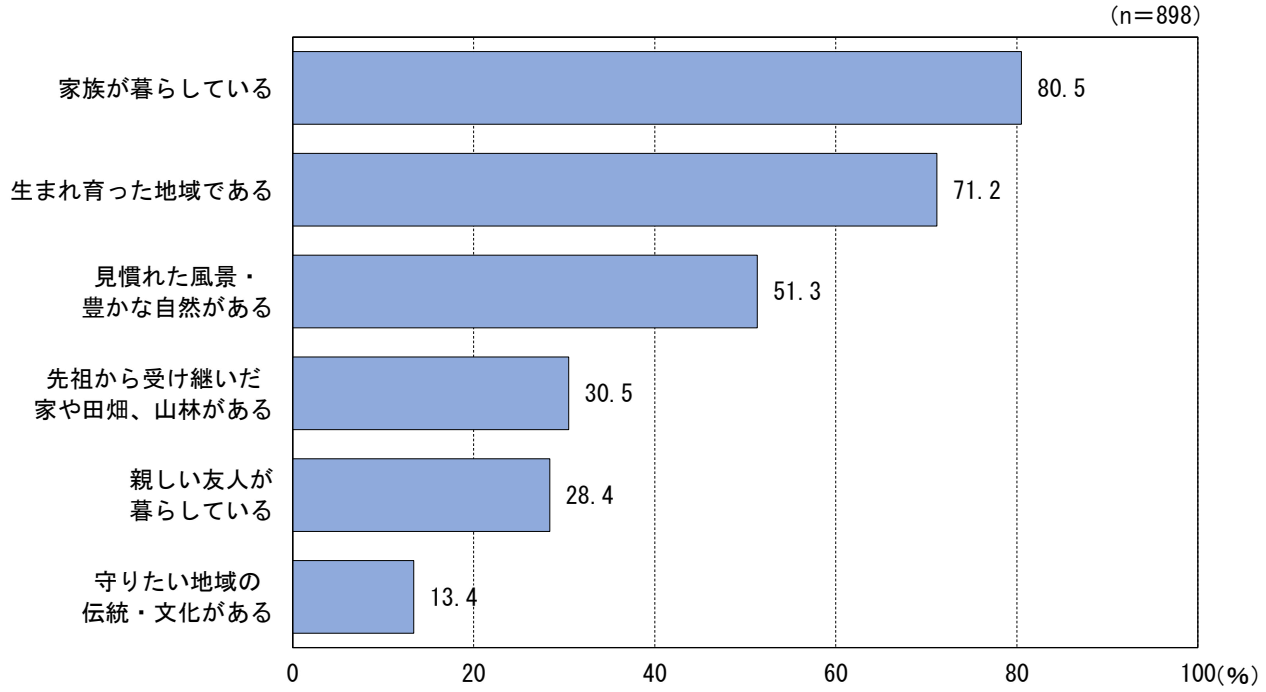
問４　ふるさと（実家のある地域）に愛着を感じるか。



（ふるさととのつながり）

ふるさと（実家のある地域）とのつながりを感じることとしては、「家族が暮らしている」が80.5％と最も高く、次いで「生まれ育った地域である」が71.2％、「見慣れた風景・豊かな自然がある」が51.3％となっている。

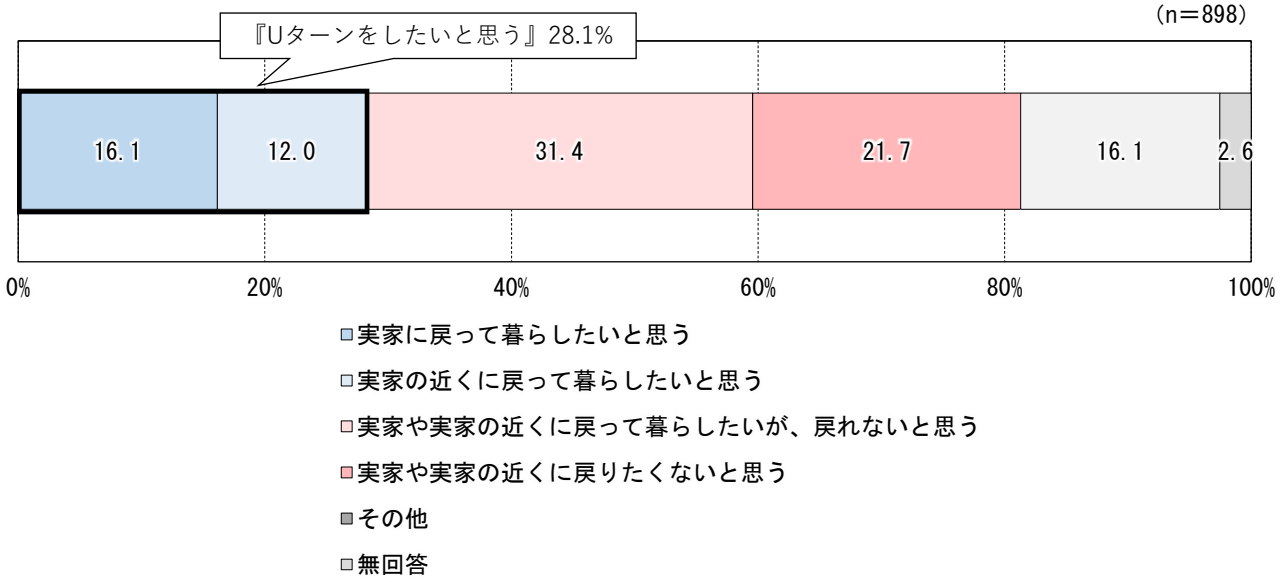
問５　ふるさと（実家のある地域）とのつながりを感じるのはどのようなことか。（複数回答）



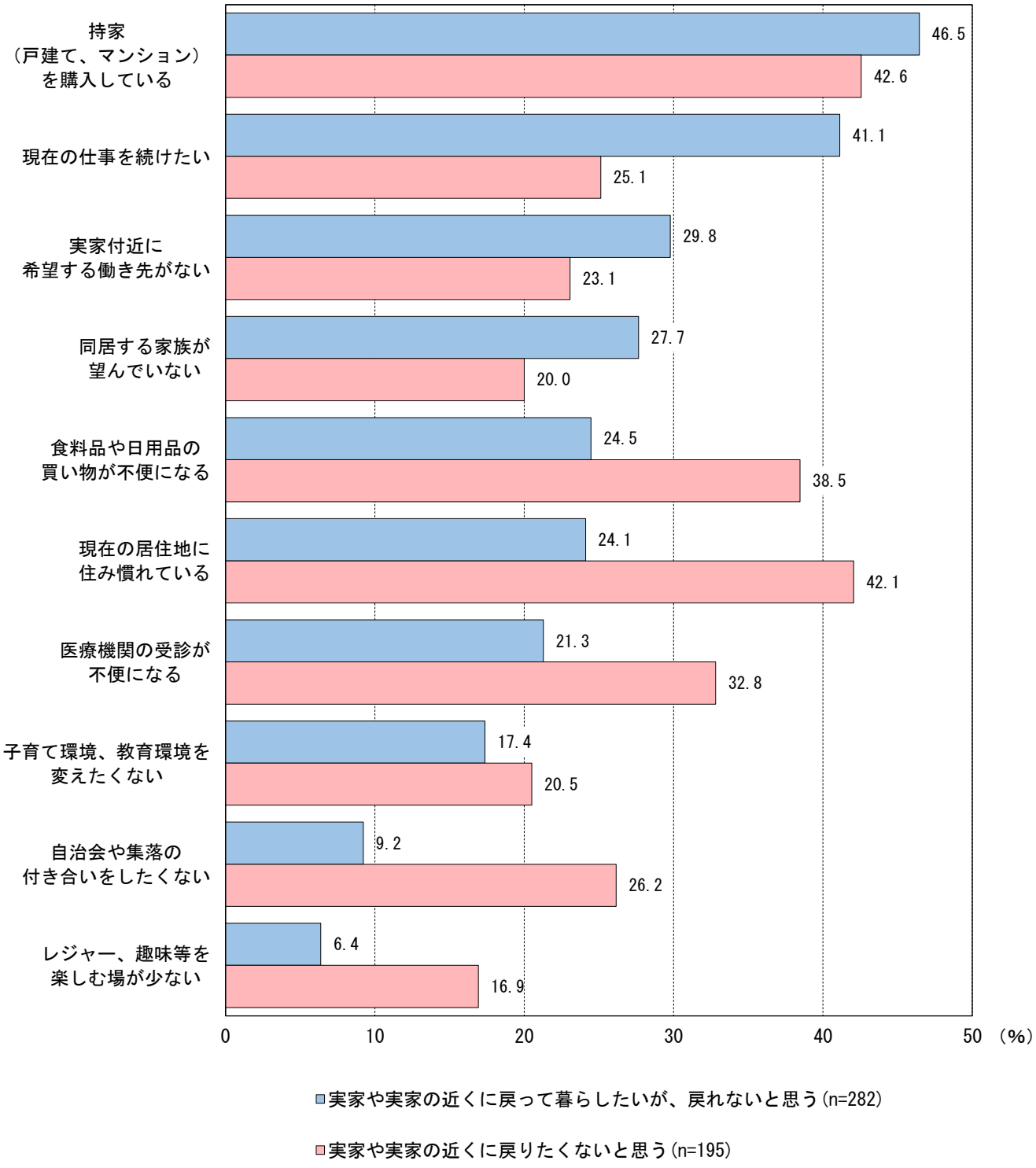
（Ｕターンの意向）

『Ｕターンをしたいと思う』（「実家に戻って暮らしたいと思う」「実家の近くに戻って暮らしたいと思う」の計）と回答した人は28.1％となっている。一方で、「実家や実家の近くに戻って暮らしたいが、戻れないと思う」と回答した人は31.4％と最も高くなっている。

問６　今後、実家または実家の近くに戻って暮らしたいか。



「実家や実家の近くに戻って暮らしたいが、戻れないと思う」と回答した人の理由としては、「持家を購入している」が最も高く46.5%、次いで「現在の仕事を続けたい」が41.1%、「実家付近に希望する働き先がない」が29.8%となっている。

「実家や実家近くに戻りたくないと思う」と回答した人の理由としては、「持家を購入している」が最も高く42.6%、次いで「現在の居住地に住み慣れている」が42.1%、「食料品や日用品の買い物が不便になる」が38.5%となっている。

問７　問６で「実家や実家の近くに戻って暮らしたいが、戻れないと思う」「実家や実家の近くに戻りたくないと思う」と回答した理由にはどのようなことがあるか。（複数回答）